

The EIKO ALUMNI

卒業25&5年を振り返る

contents

ご挨拶	2
[特集] 卒業25&5年を振り返る	4
OBだより	8
学園だより	16
同窓会information	20

Vol. 99
April 2023

同窓会会長よりご挨拶

会員の皆さま、withコロナ、さらにはafterコロナが見えてきた今日この頃ですが、ご無事にお元気にお過ごしでしょうか。

平和への思い

コロナ禍は先が見えてきた感もありますが、ロシアのウクライナ侵攻、北朝鮮のミサイル、中国の気球など、人が人を不幸に、不安に陥れる事案が頻発しています。人類の歴史は闘い(戦い)の歴史とよく言われますが、やはり人に“欲”がある限り、戦争は繰り返されるのでしょうか。少しでも多くの方が“平和”に人生を全うできるように、そんな世の中になるように。私たち一人ひとりが心がけ、行動することが大切と感じる毎日です。誰もが明るく平和に暮らせませうように。

2022年度同窓会のふりかえり

2022年度同窓会事業は、学園の動向も見据えつつ、withコロナで進めました。フォス初代校長先生特別展は、学園の教室をお借りしリアルで開催し、歴史文学散歩も実施。各会合や委員会などは、リアル&Zoomのハイブリットで行いました。またOBフォーラムはZoomでの開催としました。

ALUMNI98号でご案内した“栄光学園同窓会のビジョン検討”特別委員会の後の“財務検討特別委員会”では、新たな幹事も加わり、今後の同窓会事業と会費のあり方などについて、様々な角度から議論、検討を進めています。2022年度中には、全ての課題を解決、結論付けすることは出来ませんでしたので、2023年度定期総会では中間報告とし、さらに検討を継続してまいります。

2023年度の同窓会

2023年度定期総会は、5月13日(土)栄光祭当日にリアル&Zoom会議と議決権行使書併用のハイブリット形式で開催します。特に、2023年度は役員改選の総会となります。新役員案は4月の常任委員会を経て、総会でご審議いただくこととなりますので、各期、各支部の委員の皆さまよろしくお願ひいたします。2023年度は、同窓会創設70年、会報ALUMNIの100号の年となります。新執行体制のもと、秋の記念事業開催、ALUMNI100号特別号の発行を目指します。事業計画案の概要は本誌に掲載しておりますので、ご覧ください。1期から新たに入会した71期まで、全ての会員の皆さまに参加していただける、関心を持っていただける同窓会事業を目指してまいります。

ふりかえりと感謝

会則により、今年度をもって会長を退任させていただきますが、2017年5月の総会で第14代同窓会会長を拝命してから、あっという

間の6年間でした。これまで多くの皆さまからの叱咤激励、温かいご助言、物心とものご支援をいただきながら、何とか同窓会を進めてまいりました。全ての関係者の皆さまに、この場をお借りして感謝申し上げます。

学園、後援会に、日頃から大変お世話になっていることは言うまでもありません。菱沼前会長、高須、後藤元会長には、大変可愛がっていただき、同窓会の何たるかをご教示いただきました。また、主に副会長4年、会長6年の10年間、私のわがままにお付き合いいただき、支えていただき、共に同窓会事業を運営して下さった、執行部の皆さまには、本当にお世話になりました。特に、青木、前山、関根、島崎、高橋各先輩には感謝という言葉だけでは足りず、中でも、今年度で副会長をご勇退いただく予定の青木先輩(10期)には、気持ちを言葉でお伝えすることなど全く叶わず、また足りるものでもありません。多くのお時間とお手間を頂きました。我々に凛としつつ暖かい背中を見せていただき、本当にありがとうございました。また、同期で執行部への“巻き込み事故”にあわせてしまった増木さん、米山さん、木村さんにも様々支えていただきましたこと、感謝申し上げます。

次代へ伝えたい金言

同窓会執行部に何らか関わって、かれこれ25年ほどでしょうか。これまで、私を支えてくれた大先輩の金言があります。ある時、とある同窓会事業の運営があまり上手くいかず、定期総会で費用対効果など、先輩方を中心に厳しいご指摘をいただき、なかなか収まりそうもなく…。執行部が困っていると、ある田浦世代の大先輩がさっと手を挙げ、にこやかな表情で「まあまあ、たかが同窓会じゃないですか…。されど同窓会ですけどね。」と、やわらかなご発言が。この一言で、場は一気に治まり、無事総会を終えることが出来ました。以来、この言葉を胸に、“やらないで後悔するより、まずはやってみよう”と同窓会事業に取り組んできたつもりです。

これからの同窓会は、真に3世代が繋がる会、4姉妹校が共通した価値観をベースに繋がる会、学園、後援会と、より連携を深めて繋がる会に、きつとなっていくと思います。種ぐらいはパラパラと蒔いてきたように思いますので、あとは次期執行部、次代の皆さんに委ねれば大丈夫！ 全ての会員の皆さま、ご参加、ご協力をお願いいたします。



栄光学園同窓会会長 山田宏幸 (30期)

学園よりご挨拶 生徒指導部から見たアフターコロナの現在地

2022年4月より、前任者壺岐太先生の後を受け、生徒指導部長を務めています日野俊一郎です。同窓会の皆様方には日頃より学園の教育活動にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

私は、2003年に数学科の教員として栄光学園で勤め始め、現在は、2025年の共通テストに導入される新教科「情報」の担当をしています。また、今年度より指導部長の仕事の一つとして、同窓会との窓口をさせていただいています。同窓会執行委員会にも可能な限り出席をさせていただいていますが、みなさまの学園に対する想いにも触れることができ、大変有意義な時間となっています。

2022年度は、今までできていなかったことを少しずつでも再開したり、現段階で実現可能な形で実施したりした年度となりました。特に印象に残ったものをいくつか挙げさせていただきます。

栄光祭・体育祭

5月の栄光祭では、入場していただく方は限定したものの、2年ぶりの部外者を招いて行い、生徒たちは感染対策を行いながらも、あのときできる最大限の企画を用意し、多くの方々を楽しませることができたのではないかと思います。生徒からすれば、できるだけ完全な形で実施したいという強い思いを抑え、「できるときに、できることを実行した」のではないかと思います。なお、2023年度の栄光祭につきましては、現在、幹部学年である73期を中心にして準備をしています。現段階では、コロナ前のように卒業生の皆様にもご来校いただけるように準備をしております。

また、10月には、6学年が一斉に集って行う体育祭も行うことができました。特に、最後の競技、クラス対抗リレーでは、青組(B組)が1位でゴールした瞬間、全学年のB組の生徒がアンカーの高校3年生のところに集まって密になり、喜びを分かち合った姿をみて、その光景を随分と久しぶりに感じたこととともに、生徒にずっと我慢させてきたことを痛感するシーンとなりました。ちなみに、コロナ前ではなかったこととして、準備体操であるラジオ体操第2をプラスバンド部が演奏し、それに合わせて全校生徒が体操を行いました。

中3、中2の栄光ヒュッテ遠足

中2、中3で「栄光ヒュッテ遠足」と題して、日帰りで行きました。栄光生には、1度でもよいので、全員に栄光ヒュッテ

を見てほしい(実は高校1年生である73期も栄光ヒュッテを見ることができていませんが…)ということで、日帰りということもあり、近くまでマイクロバスで行く、という形で行いました。

まずは4月に中3が行きました。本当にその場に行くだけで特別なプログラムを用意しませんでした。多くの生徒は、栄光ヒュッテの中を少し見た後は、沢で遊んでおり、バス会社の方が、多くの生徒たちが沢に入って大はしゃぎしている光景を見て、「進学校の生徒がこんなところに行って何をするんだと思っていましたが、こんなにも遊ぶんですね」という言葉に、外から見たイメージと実際の栄光生のギャップを改めて感じました。ちなみに、10月には、同様の形で中学2年生でも「栄光ヒュッテ遠足」を実施、その日はとても寒かったのですが、同様の光景が見られ、さすがに私も驚きました。

高3ディズニーランドに行く

2022年2月に実施予定だった高2沖縄修学旅行は中止を余儀なくされ、71期も学園生活最後の宿泊行事が中3のときの京都旅行になってしまうところでしたが、「修学でなく、思い出作りでもよいので、宿泊行事をできるときに、できることを」ということで、おそらく栄光学園としては最初で最後になるのではないかとと思われる「東京ディズニーランド&東京散策」旅行が6月に実施されました。学年全体の宿泊行事は、コロナ前直前の2020年2月以来でした。私自身は引率はしませんでした。大変楽しそうに過ごしたようです。

2023年度は、5月8日に新型コロナウイルスも5類に移行するとのこともあり、学校も生徒の活動の多くがコロナ前に戻ったり、新たな活動が生まれてきたりするのではないかと推測しています。生徒たちがよりよい活動ができるよう、学園としてもできる限りのことをやっていきたいと思っています。同窓会の皆様にもご理解とご協力をいただけますよう、心からお願い申し上げます。



栄光学園 生徒指導部長 日野俊一郎

卒業25&5年を振り返る

46期生(卒業25年)と66期生(卒業5年)に、当時の学園生活や、栄光が今の自分に与えた影響などを寄稿していただきました。

卒業25年を振り返る:46期 坂道の上から見える風景

坂道を登って

「やっと着いた。こんなに遠いのか」。1992年4月、JR大船駅から坂道を歩くこと15分、初めて6年間を過ごす栄光学園に登校した時は、こんなことを考えていたと思います。清泉生が乗る「神奈中バス」を横目に、息を切らせながら、何度駆け上がったことでしょうか。

我々46期は、バブルが終わりを告げた1992年に入学しました。私は中一D組で大島弘尚先生が担任。クラス写真を見ると、みんな真面目で緊張している姿が似ています。しかし、「栄光には神奈川の凄い子達が沢山いる」と思っていた川崎の小さな塾出身の私からすると、同級生は「凄そうな人達」です。そして、校庭で奇声をあげて走り回る少年もいました(長い付き合いになる川村君でした)。「凄だけでなく、面白そうな人のいる学校だな」と緊張が解けてワクワクしたことを覚えています。

私を形作ってきたモノ

(1)キリスト教の精神

栄光はイエズス会を設立母体とする学校です。私はクリスチャンではありませんが、だからこそ、「機会があればキリスト教を学ぼう」と決心し、いろいろ首を突っ込みました。英語・数学などの主要科目はダメなのに倫理の成績が良かったのは、同級生から揶揄われていたように私が「偽善者」なのではなく、この好奇心の現れだった、と思っています。

そんなご縁もあり、中学2年生では、ネパールの霊峰アンナプルナ山麓のポカラという町に、同期5人で大木章次郎神父を訪ねる機会を得ました。広島学院退職後、30年の長きにわたりネパールでの障害児支援などに尽力された大木神父ですが、私は、大木神父の栄光での公演時の「是非、ネパールに来て、自分の目で見て欲しい」というお言葉に飛びつきました。ネパール行きは、広島学院の倉光先生に助けていただき実現できましたが、この経験は、私の考え方・生き方の基礎を作ってくれました。大木神父も倉光先生も鬼籍に入られていますが、お二人に胸を張ってご報告できる日が来ると信じています。

(2)野球部の心意気

栄光6年間の大部分は、「野球部」が占めています。足も遅く、力もない私ですが、野球に夢中でした。今振り返ると、実はゲ

ームやマンガの時間も相当あった気がしますが、当時の私は、「朝から晩までボールを握っている。野球漬けだ」と思っていました。

中学監督の大高先生には、勝利という目標に向けて何をするか考えること、漫然と練習するのではなく「頭」を使うこと、を叩き込まれました。当時若く、ありきたりの教育者像に染まっていない大高先生には、野球・勉強・(いろんな意味での)生活と、公私にわたり、本当にお世話になりました。そして、Keddy(ケディー)というあだ名をありがとうございました。いまでも呼ばれています 笑。

また、高校監督の壺岐先生には、当時当たり前だった、「高校二年生で引退する文化を変えたい」とお願いして、高校三年生の夏まで同期6人の面倒を見ていただきました。高三の夏の大会は、楽勝ムードから終盤のまさかの逆転負けと残念な結果でしたが、あの負けがあるからこそ、「人生思うようにいかないし、逆にそれを乗り越えることが力になる」と実感できたのだと思います。



▲ 同期5人とネパールの大木神父を訪ねて



▲ 栄光6年間の大部分は「野球部」が占めている

(3) Men for others

大学受験では、高三夏まで野球を続けた6人のうち私1人だけが浪人という展開に。キャプテンの下鶴君の卒業式挨拶で泣かされた後、孤独な浪人生活に入りましたが、実は塾にも栄光同期が沢山いて、楽しい浪人生活でした。しかし、センター試験1日目、自宅に戻ってくると、病氣療養中の父の死が待っていました。父は酒量が多すぎたので自分の中で覚悟はできていましたが、合格まで頑張っていたところだったので、正直、パニックになりました。

そんな、私を支えてくれたのは栄光での6年間でした。葬儀には、高三担任団の高田先生・井本先生・大西先生・大高先生のご助力もあり、たくさんの栄光の同期、先輩・後輩、先生方に来訪いただき、葬儀場から驚かれるほどでした。これだけの人が私という「他人」のために動いてくれた、この事実は、私の大きな自信となりました。その年の試験にも無事合格でき、大学生活、社会人生活、そして今でも、「自分も人のための人であれ」と私を支えてくれています。

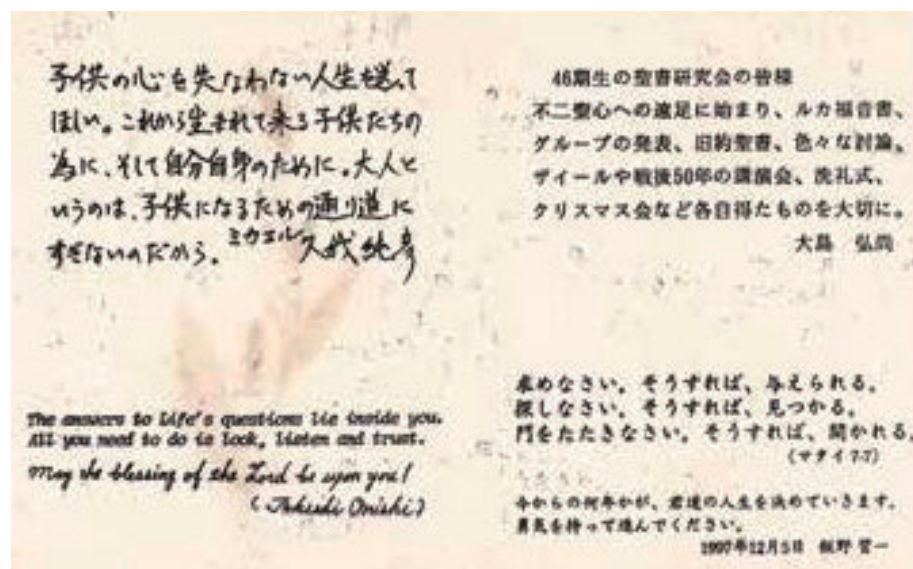
そういえば、高三の修学旅行でも、旅行後にとある部屋での飲酒写真が発覚し、「飲酒した者は申告するように」という学校の呼びかけに対して100人位が一斉に手を挙げた、なんてこともありましたね(正確な人数は覚えてないですが、そんな記憶です)。あれも、無意識のうち、「自分が黙っているとどうなるか」を感じたからではないか、と思っています(悪い事したら正直に言うのは当たり前ですが 笑)。私は、そんな栄光生、46期生が大好きです。

栄光から見える景色

栄光坂を登り切った校舎、また、野球部でランニングしていた裏山の高台からは、大船の町が良く見えました。それと同じように、卒業して25年、栄光での生活を振り返り、何を考え、どう成長したかを再認識できました。私には、中学2年生の娘と小学4年生の息子がおり、娘も息子もまだ短い人生ながら、成功を経験したり、壁にぶつかったりしていますが、「その経験は決して無駄じゃないよ」と、声をかけてあげたいと思っています。栄光に入学した時の父と母の嬉しそうな顔を思い出しながら。

最後になりますが、貴重な機会をくださった同窓会広報部のみなさん、そして、私に執筆を譲ってくれた46期同窓委員の北村君、佐々木君、ありがとうございました。

鈴木 朋紀/Keddy (46期)



▲ 先生方からのメッセージカード



1992年4月 中一D組(46期)

卒業5年を振り返る：66期

昨年12月末、同窓会より卒業5周年記念として66期の記事を書いてほしいという依頼がありました。この話を受け、せっかくならば66期の雑談の記事にしまえということで、年越し間もない1月2日、即席で人を集めてひたすら雑談をする会「雑会」を開催。前日に情報公開したのにもかかわらず、総勢11名の66期が集いました。話題に欠かない66期の雑談をご堪能下さい！



【参加者】

青木亮介 一橋大学社会学部3年
秋間熙 社会人(コンサル・経営IT)(慶應義塾大学経済学部卒)
石川輝紀 上智大学文学部4年
近藤勇仁 横浜国立大学理工学部4年
重城守 東京大学法学部4年
武優樹 京都大学大学院人間・環境学研究科修士1年
中田考哉 北海道大学大学院工学院修士1年
永田幹人 早稲田大学文化構想学部卒
西村勇人 社会人(人材・IT)(横浜国立大学経営学部卒)
三浦大樹 東京大学大学院工学系研究科修士1年
水野健 社会人(メーカー営業物流)(慶應義塾大学環境情報学部卒)

今やっていること

秋間:社会人になって1年が経つけど、俺はコンサル系で働いている。普段は企業と企業を合併させるいわゆるM&Aのサポートに携わっていて、M&Aってどうやって進める？みたいなものの手順書を資料として作成しているイメージ。資料を使って誰にどんな状態になってほしいかを意識していつも作ってるんだけど、だいたい「これじゃわからん！」って言われてる(笑)。

近藤:俺はこの4月から学校を変えて修士に進む予定。この4年間専攻したのは物理工学で、研究室は理学系だけど半導体や回路のような工学系のこともやってた。大学院では、太陽の内部構造の研究とそれを測定する衛星計画の推進についてやるつもり。物理の勉強をしてきて大した研究もせずに社会に出たくなかったから、自分の研究したいことが素粒子というよりは天文学だと感じて、環境も変えて院に行こうって決めた。

水野:4月末から7月まで大手メーカーの営業だったんだけど、あまりに嫌で7月から物流担当になった。そこからは半年くらい続いているけど何とかやれてるよ。大学はSFCの環境情報学部にはいたけど、結構変態な学部だったね。全てが型にはまっていない。文理も分かれてないし、医学から法律から自分の興味次第でいかようにも勉強できる。裏を返せば色んな基礎を広く浅くやった気になって単位取って卒業、っていうこともできちゃうから個人のやる気に委ねられる点は難しかった。

地方はいいぞ

中田:大学から北海道に来ているけど、寒いことさえ除けばめちゃくちゃ楽しい場所(笑)。北海道大学は本当にいる

いろな地方から人が集まっていて、北海道出身の人は実は全体の4分の1くらい。神奈川出身も結構いて、自分は体操部出身なんだけど、70期の体操部の後輩が北大に来たね(笑)。あと1年大学院で北海道にいるけど、就職は関東に戻るつもりでいる。

武:京都は季節が梅雨と夏と冬しかないから住みやすさは一旦さておくとして(笑)、自分にとってはすごく心地いい場所。関西の人っていい意味で壁を作らないというか、関東よりも一歩近いところで関係性を築いてくれる感じがあって。京大の学風が栄光に近いこともあるかな。京大もやっぱり日本全国から人が集まっていて、北陸とか九州とかもかなり多い印象。居心地がいいから理想は関西で就職したい！

自分の好きを極める

石川:高1ゼミで演劇ゼミをやっていたのがきっかけで、大学でもずっと演劇をやっている。一番の魅力は「誰かになりきる、誰かを演じることを通して簡単に非日常を体験できる」ことだと思ってて。もちろん発声の技術とか裏方の機械のスキルとかは必要だけど、脚本の上の人の気持ちを想像したり、普段は友人として接している人と役を通して一味違う関係性になったり…そういう体験ができることがすごく楽しいんだよね。

重城:俺は山キャンきっかけでワンダーフォーゲル部にも入って山を登り続けている(笑)。何と言っても一番の魅力は山での体験が過酷であればあるほど、下山後の温

泉が素晴らしく感じられること。登ってるときはきつなくても、後からみればいい思い出になることがくせになるんだよね。自分にとって山は心が鍛えられる場所。外界では歩き疲れても山の中では5時間歩き通しても疲れない。なんか栄光生時代のテスト期間みたいなものなのかも（笑）

青木：元々「こう振る舞うのが自分らしい」みたいな考えが強く、常に「いい子」でしようとしてた。だけど浪人とか留年とかを経験して、そもそも「いい子」って自分が勝手に思い描いただけなことに気づいて、それなら自分で勝手に戒めていた「らしくないこと」例えば髪色とかネイルとか、とことんやってやろうと思って。

「好きなこと」って大事にされ過ぎて振り回される部分がある気がするんだけど、もっとテキトーでいいんじゃないかって思う。極論言えば自己肯定感をあげるための道具なだけだしね。ただ自分が楽しむだけに「好きなこと」を心においておけるのが理想だよね。

栄光生で群れるのって

西村：俺、同窓会誌に100%栄光礼賛の文章を載っけたくないのよ（笑）。あえて栄光生であることのマイナスを挙げるならどんなことがある？

永田：いわゆる「栄光生」のウェットで一体感のあるコミュニケーションは、そこからはみ出そうとする瞬間に牙を剥く感覚がある。栄光というコミュニティから離れようとした時にそれを許さず強く引き戻されるというか。群れる感じが嫌いな人には物凄く重くてストレスフルな足枷になっていると思う。高卒とか専門卒とか全く異なるバックボーンの人と関わって相対的に見た時に強く感じたかな。

西村：うちがご近所にも関わらず清泉とそこまでお付き合いがない、みたいな「山の上のユートピア」ならではの接点の少なさがあるだろうね。

青木：人見知りをしてる癖に馴れ馴れしい、つまり距離の取り方は苦手な人が多いイメージ。相手の考えとか背景を想像して考えて近づく距離とかタイミングを凶ると思うんだけど、その感覚をすっ飛ばして0/1で接していて間の調整が上手くない。

三浦：俺はたまたま留学に行って、「何考えてるかわかんない人にも自分から話しかけないとダメなんだな」っ

てわかった。栄光では自分の周りの世界は自動で回っていく感覚になっちゃうけど、そうはいかないよね。

栄光で培った、ものの考え方

永田：俺が感心するのは「自分達はテストができることで頭が良いと言われているだけであって、柔軟な思考だったりする本当の頭の良さを全ての場で持ち合わせているわけではない、だからこそ学び続けなければいけない」というスタンスをかなりの栄光生が持っていることだと思う。そのスタンスを得させてくれたのは栄光での教育だったと思うし宝物だな。

西村：教育機関としての効率性は落ちるけど勇気を持ってそっちに振ってるのは、結果的に多様な価値観の尊重、学びに対する謙虚な姿勢につながるよね。あいつ数学全然出来ないけどめっちゃくちゃ英語のスピーチ上手い、みたいな。これはそもそもどうしたって世間から見たら画一的で偏りのある中高一貫男子校で少しでも多様性を生み出すために学校が苦労してる面なのかなと振り返って感じる。

三浦：一方でその多様性を社会全般で達成するのは難しいとも思うね。例えば「ダイバーシティ」の議論で持ち出される女性とか障がい者の活躍、これは目に見える形式的な解決方法でももちろんこれも大事。一方で本当に社会が欲しいダイバーシティは「他の人が何やってるか/何やりたいかを何となく把握した上で、各個人が好きなものを究める」ことができる状態なのかなって思うんよね。でも、これが栄光で達成できた（ように見える）のは、180人という手の届く人数が長い時間閉じられた空間で一緒にいたからこそなのかもな、と。



OBだより

22.10.7

8期同期会

同窓会HP
>活動報告・会報記事
>各期活動

3年ぶりの同期会

3年振りの8期同期会が2022年10月7日に横浜のホテル・プラムで開催された。多くの仲間が待望していた会であったが、生憎の悪天候に加え、コロナがまだ完全には収束していない状況で、大勢が集まることに不安を感じる人もいる中での開催であったこともあり、出席者は前回の46名からかなり減って33名であった。本人の体調不良が理由で出席出来なかった者、夫人が体調不良でその介護で出席出来なかった者がかなりいて、3年のブランクを感じさせられた。

会は例年通り高井直紀君の司会ではじまり、最初にこの3年間に他界された稲田順一先生、南 昭成君、吉田裕美君、熊木建郎君、加藤圭一君、浜田卓二郎君、の冥福を祈り黙とう捧げた後、天野芳文君の乾杯の音頭で宴が始まった。今回は感染症対策で従来の立食ブッフエスタイルではなく、着席ブッフエスタイルで行われた為、多少の不自由はあったが久しぶりの再会を楽しむことが出来た。

しばしの歓談の後、長年幹事を務めてくれた田辺君が個人的な事情で幹事を続けられなくなった経緯を説明し、斉藤(尚)君が同窓会の歴史文学散歩参加の話、松木君が11月に開催予定の8期会ゴルフの宣伝、ゴルフの腕前では8期1,2を争う内海君が今年2回エージシュートを達成した話し、今もジ

ャズの世界でプロとして活躍している高橋(三)君、同じくジャズバンドメンバーとして頑張っている神田君のジャズコンサートの話、更に長年母校の歯科校医を務めた川田君から歯科医の話、等があった。

下関からもZoomで参加

今回の新しい試みは、天野君の努力で、今回都合で出席出来なかった下関在住の作道君とZoomで繋いで話しをしたことで、コロナで集まる事が出来なかった期間、有志がZoomを利用して“Zoom8期会”を開催していた成果で、出席出来ないことを残念がっていた作道君はもちろん出席者も大いに楽しむことが出来た。

約2時間の歓談の後、最後は石川君の指揮で、“千里の波濤”、“Eiko High Forever”、“Pirates Song”を唄い、集合写真を撮って、来年の再会を約してお開きとなった。

今回は高井、矢口、河相、の3名が幹事を務めたが、皆歳をとるに従いメールアドレスは有ってもメールを見ない為、返事の来ない者が増えたり、日にちを間違える者がいたりして、事前の準備にかなり労力を要し、今後この会を続けて行く上での課題と感じた。

最後に今回はホテル・プラム社長、19期生の平山義浩君にいろいろご配慮頂いたことに感謝の意を表したい。

河相 董 (8期)



3年ぶりの開催！

ともかくも元気な者が顔を合わせよう

コロナ禍で自粛が続いていた同期会、3年振りに開催の運びとなりました。私たち9期生は20世紀の終り頃から、毎年4月と10月の第三火曜日に、「三火会」を催してまいりました。令和元年10月15日(火)お昼に、その拡大版として61名が集う「お互いに喜寿を祝う会」を開催しましたが、それ以降、この三火会も中止を余儀なくされております。

今回、幹事一同で熟慮した結果、「コロナ感染の恐れをどう受け止めるかは個人の判断に任せ、集まる機会は設けよう」ということになりました。数えで言えば私たちは傘寿を迎えました。大仰な催しを準備する時間もなく、「ともかくも元気な者が顔を合わせよう」という趣旨です。

実は喜寿の会以降の3年間に、同期生8名が逝去しました。幹事が把握している限り、栄光卒業以来累計で165名中37名の9期生が他界しております。

会場は横浜中華街にある広東料理の店、大珍楼。お昼前から7階の宴会場に三々五々集合、結局今回は28名の参加となりました。

正午開会、先ず前回以降亡くなった稲田順一先生(喜寿の会を含め、9期の懇親会には必ずご参加くださいました)、同期生8名のご冥福を祈り、献杯です。宴会場は70名収容の広

さですが、ソーシャルディスタンスを考え、6つの円卓に5名ずつ座りました。耳の遠くなった者は隣との会話で身を寄せざるを得ません。

席を立ち、隣の円卓の談笑に加わり、さらに別の卓に移り久闊を叙す者が少なくありません。7、8名が指名されて、或いは名乗り出て闘病、その他の近況報告。3年前と比べ、飲まれた酒量がめっきり減りました。宴たけなわでしたが、締めは千里の波濤、わたしのキャンプ、Eiko High Foreverを合唱し、集合写真を撮って午後2時半、お開きとなりました。

意外と多い現役

出席、欠席を問わずお願いした近況報告は43名からいただき、文集にまとめて9期の掲示板にアップしました。それを読むと、まだ現役で仕事を続けている者が思った以上におります。半面、前立腺肥大、癌、腰痛などで手術を経験している者も少なくありません。10数年前までは癌は不治の病の扱いで本人に告知することも憚られていたのですが、現在は手術したこと、或いはその診断を受けたことを淡々と告げる時代なのだと痛感します。それだけ医療の進歩が目覚ましいということなのでしょう。

次回の三火会は4月19日。頭の、そして足腰の衰え対策のためにも、参加して共に語り、笑い、飲もうと思います。

八木 英樹 (9期)



古文書の発見!!

それは2021年春、同期の東京経済大学教授のシバタ君の実家で、ある「古文書」が発見されたことから始まった。半世紀以上の歳月を経て、薄茶色の変色したそれは、われわれ19期が1965年2月に受けた中学入学試験の問題だった。試験当日、ご母堂が購買部で購入し保管されていたようだった。「それ、同期会に使おう！」シバタ君から一報を受けた同期会の万年幹事のカツミは出し物に使おうと企み、あの男からの声かけを待った。2022年春、待ちに待ったヒラヤマ君から声がかかる。「(去年できなかった)卒業50周年記念と古希祝いの同期会をやろう！」。幹事の活動開始。19期の同期会では、お抱えバンド的存在となった元軟式庭球部メンバーが中心の「SUS4++」の演奏が定番。メンバーはサエキ君、脳外科医院を開業するウエダ君、国立がんセンター元部長のヨコタ君、起業家のアキヤマ君、東北大学名誉教授(超音波ナノ医工学)のウメムラ君と栄光学園元副校長のイイノ君。全員理系だ。

5年前との違いから古希を実感

9月3日当日、会場に集まった55名の同期。5年前の前回と大きく変わったのは、多くがリタイアし、名簿の職業欄が空欄ばかりになったことで、「古希」という言葉の響きを実感した。春の開催決定から半年経って、予期せぬ第7波の最中で開催となったため、300人収容の宴会場に円形テーブルを設置した着席方式となった。宴は進んで1つ目の出し物のSUS4++の演奏。演奏曲は「A whiter shade of pale」「Here comes the sun」「Hotel California」「The impossible dream」の4曲と「栄光ハイ」。「The impossible dream」は高校時代、英作を担当していたただいたブルカ神父が授業で使った曲で、2017年に帰天されたブルカ神父への追悼の思いが込められた。

入試問題に再チャレンジ

さらに宴は進んで、いよいよ中学入試問題の披露へ。会場のスクリーンに映し出された問題の映像に一同興味津々。1次試験の問題は、国語、算数、理科、社会と4つあったが、19期のときの2次試験は3つしかない。なぜか。理由は不明だが、われわれの入試では国語と社会が合体していたのだ。問題は俳句が題材で、国語系では日本で俳句が生まれた背景や「古池や…」をはじめとする例示された俳句の解釈を記述式で問う。社会系では俳句を生んだ日本の気候の特色について、その理由を記述式で問う。すると、国交省の元河川局次長のヒビ君が手を挙げて発言を求めた。「そのときのことははっきり覚えていて、最初、視聴覚教室で境野先生から俳句についての話を聞き、教室に移動して問題を解いた。ボクは『梅一輪一輪ほどのあたたかさ』という句の解釈について、1つに絞れず、すごく悩んで悩んで解答した」人間、苦しんだことは半世紀経っても忘れないのだろう。57年前の意表を突かれた出題は、受験テクに長けているより、地頭で考えられる生徒を選抜しようとしたのだろうか。算数の問題については、数学好きだった前出のサエキ君に12歳の小学生になったつもりで事前に解いてもらっていた。その解答を披露。飲酒が進んで、頭の回転が鈍った面々はあぐりと口を開けて眺めているばかりだった。最後に社会の1次試験の問題にトライ。全15問のほとんどを出席者は答えられず、12歳の小学生より70歳のほうがはるかに社会知識が乏しいことを自覚し、これからはボケないよう、リカレントの必要性を痛感して閉会とあいなった。なお、サエキ君の解答に対し、同期のメーリングリストでは、延長戦が繰り広げられている。

勝見 明 (19期)

発掘された入試問題例

【算数】

50円玉、10円玉、1円玉を合わせて596円あります。
このうち、1円玉の枚数は50円玉の枚数の9倍です。
このとき10円玉は何枚になりますか。

【社会】

ア. 十和田湖 イ. 芦ノ湖 ウ. 河口湖 エ. 宍道湖

1. 本州にある
2. 火山活動でできた
3. 川がせきとめられてできた

ア～エのうち、1つを除いて、
他の3つに共通する性質を1～3から選び、
除くものも答えなさい。



同期にこんなにも大相撲ファンがいたとは！

イベントを企画した者としての偽らざる心境です。この大相撲観戦ツアーは今回で3回目となります。1回目は2013年の九月場所、2回目は2017年の一月場所で、参加者はそれぞれ12名と18名でした。そして今回はなんと20名も集まりました。しかも、同期のメーリングリストでアナウンスしてからわずか1週間という早さで枠が埋まりました。

両国国技館のマス席は土俵に近い順からABCの3ランクに分かれています。チケットは一般の予約サイトからも購入できますが、土俵に近い席やテレビに映る向正面の席は国技館内の20ある相撲茶屋が押さえています。そのなかでもさらによい席はスポンサーである大企業によって占められているため、われわれが手に入れられる席は限られます。そのため、希望する日にちと必要枚数を早く茶屋に伝えておかないとよい席はとれません。今回は私が懇意にしている高砂家さんに便宜を図っていただきました。

1マスの定員は4名なので、参加メンバーの数も4の倍数であることが望めます。しかも、茶屋経由のチケット購入の場合は、こちらの都合を聞いていただく代わりに、幾ばくかの相撲土産を注文しなければなりません。さらに、チケットもそれなりの金額ですが、キャンセルはできません。

これだけの制約にもかかわらず20名もの同期生が集まったのです。そのうえ、みな驚くほど相撲に詳しい。土俵に向ける視線も鋭い。その熱意に応えるはずの本場所は、横綱土俵入りもなく、大関が一人だけとはどういうことか！休場力士も多いぞ！力士たちよ、奮起せよ！

でも杞憂に終わりました。ひとたび土俵に目を向ければ熱戦に次ぐ熱戦。物言いあり、回し待ったあり、土俵際の逆転ありの

大盛り上がり。満員御礼の垂れ幕が下がり、マスク越しながら客席からのかけ声も復活し、国技館には活気が戻って来ていたのです。おお、これぞ大相撲。国技館でしか味わえない見世物です。つやつやした力士たちの肌、きらびやかな行司の装束、ピンと張った呼び出しの声、そして大きな吊り屋根、すべてが絶妙な調和を持って伝統文化を形作っているのです。そこにわれわれ栄光の同期が集う。もはや感動しかありません。

メはちゃんこで

熱戦を堪能したあとは、お決まりのちゃんこ。場所は「孤独のグルメ」でも紹介された「ちゃんこ大内」です。時津風部屋の巨漢大関・大内山の写真が飾られた奥座敷を占領して、興奮冷めやらぬなかでの大相撲談義、そして懐かしい仲間たちとの語り。玉縄の丘の上で6年の時を共有した友だけに許されたまさに夢のような時間でした。

私が大相撲に目覚めたのは栄光時代です。そこで蓄えた知識をもとに『大相撲の経済学』を執筆したのは2003年のことです。そのあと、角界は「若貴騒動」「野球賭博問題」「八百長発覚」等々スキャンダルと不祥事に見舞われ、それらの問題を解決すべく開かれた「ガバナンスの整備に関する独立委員会」にも関わりました。私はいつしか「ご意見番」として大相撲を一步離れたところから見る癖がついていました。

でも、今回は違いました。心から土俵を楽しむことができたのです。久々に戻って来た感覚です。わくわくしながら取組を観戦し、友人と予想番付を作り、修道院脇の鉄塔の下で相撲を取っていたあの時代。この感覚を半世紀ぶりに今回のイベントが呼び戻してくれたのです。ありがとう、仲間たちそして大相撲。また国技館で再会しよう！

中島隆信 (27期)



二十歳を迎えて

2023年1月8日、HOTEL PLUMMにて私たち69期生一同が二十歳を迎えるに際し、同窓会を開催いたしました。69期生132名に加え、私たちがお世話になった先生方のうち8名にもご参加いただき、感染症対策に留意しながらではございましたが、大変賑やかな会となりました。本会の開催にあたり、開催前から約2ヶ月間調整にあたってくださった、ホテルのオーナーでいらっしゃる平山様(19期)、また案内状送付の支援及びその費用の一部補助を行っていただいた同窓会事務局の皆様には深く御礼申し上げます。

2年ぶりながら、変化あり成長あり面影あり

各々少人数で集まったり大学で顔を合わせたりすることはありましたが、これほどの大人数で集まるのは実に2年ぶりとなりました。2年間という短い期間ではありますが、髪形が変わっていたり眼鏡からコンタクトに変えていたり外見が変わっていた同期もいれば、大学に入って新しい活動に精力的に取り組んでいたりと一段と成長していた同期もありました。しかし、共に時間を過ごす中で、根のところでは栄光時代の面影が残っていると感ずることも多く、懐かしい思いに浸ることができました。

本会は立食で来場者の談笑を中心に進めましたが、企画として30分程度「栄光学園クイズ」と題し、栄光学園にまつわる様々なクイズや懐かしい授業に関わる内容などを出題しました。クイズは参加者や幹事を中心に作成し、Kahootというサービス

を用いて実施いたしました。参加者を10チームに分け、1位のチームにはささやかな景品を用意する形式で行ったところ、最後まで熾烈な1位争いが繰り広げられ、また昔話も弾み、大変盛況の中幕を閉じました。

気付けば会の時間である2時間半もあっという間に過ぎ、最後に写真撮影を行いました。その後、希望者は竹内佐介くんが企画してくれた二次会に参加したり、各々小規模に二次会を開いていたなど、久々に集まることのできた喜びの余韻に浸っていたようでした。

大学で様々な新しい出会いを迎える中で、自分が栄光学園という環境に身を置き、多くの尊敬しあえる仲間と共に6年間を過ごすことができたことがどれほど貴重な体験だったかを実感する機会が増えてまいりました。二十歳の節目に再び多くの仲間と顔を合わせ、栄光学園で学んだものを活かして社会に貢献できるよう決意を新たにしました次第です。

最後にはなりますが、本会の開催に際して、共に様々な調整や企画にあたってくださった幹事の3名(服部泰河、清浦信吾、舟本寛太郎)、また先生方の出席調整にあたってくださった日野先生に御礼申し上げます。今後とも同期との繋がりやOBの縦の繋がりを大切にしながらより一層精進して参りますので、引き続き栄光学園OBの皆様や教職員の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

渡辺 丈(69期)



ハイブリッドで開催

2022年11月6日午後、栄光学園同窓会関西支部は第3回総会を行いました。今回はリアル（於：AP大阪梅田東）およびZoom上双方の、ハイブリッド形式での開催となりました。

もはや恒例となった瞑目の後、武優樹学生幹事（66期）の総合司会で開会となりました。幹事団からは金田真己事務局長（28期）より開会の辞、および金澤和夫支部長（23期）より挨拶がありました。その後、山田宏幸栄光学園同窓会会長（30期）より挨拶も兼ねた学園の近況報告を伺った後、引き続き六甲伯友会会長藤本久俊様、広島学院翠友会関西支部副支部長中山英治様、上智福岡泰星会関西支部長原田耕作様よりご挨拶を頂きました。引き続き議事を行い、2021年度決算、役員変更（新しい幹事として春江尚彦氏（53期）選任）、2022年度予算案の三議案とも承認された所で、議事は終了しました。

盛り上がった先生交えてのトークセッション

休憩の後、今回は、栄光ヒミツキチ（同活動についての詳細は『アラムナイ』98号参照）との共同企画として、林真理子先生（栄光学園英語科教諭）・大西猛先生（22年3月まで栄光学園英語科教諭、現在は高一ゼミ【フランス語】担当：栄光に来られるまで8年間、六甲で教えられていました）をお迎えしてのトーク・セッションを行いました。

新校舎の展望室からZoomで参加された両先生に武学生幹事がインタビューする形で、現在の学園のリアルを語っていただきました。新校舎を契機に授業が大きくIT化し（全教室にプロジェクターが付き、wifi 接続可能になる）、コロナによりさらに加速したこと（中学生全員にiPadを配布）、これにより機動的に授業が出来るようになった一方、学校・対面での学びの意味をあらためて考えさせられている、との説明をいただきました。

iPadについては、特に細かい使い方のルールを決めずにま

ずは配布という形で導入したら、休み時間に生徒たちがiPad触ってばかりで誰も外で遊ばない状態が発生、けれどもやがて生徒たちは外遊びに戻って来て、実際に使う中で皆が押し付けでなくルールを提案するようになった、との由。このあたり栄光らしい、という声が、笑いと共に参加者一同からあがりました。

学校行事は、完全にではないものの次第にコロナ前に近い形に戻りつつある（22年度については、栄光祭は申込制ではあるが小学生も来場可、体育祭は全校生徒で同時開催）そうです。お2人とも英語科との先生ということで、栄光での英語教育についても話題となりました。QRコードを利用して会場・Zoomの出席者が同時双方向的に参加できるように工夫したので、仕事で英語を使っている教え子たちから、お二人の先生への謝意を示したメッセージも寄せられる一幕もありました。

トーク・セッション終了後、今回初参加の3名の方に、簡単な自己紹介を兼ねたご自身の関西との縁について短いスピーチをしていただきました。スクリーンショットを用いた参加者の集合写真撮影を済ませ、金澤支部長による中締め、閉会となりました。

今回の出席者は4期の小倉修三さんから67期の佐藤翔太郎さんまで、計30名でした。さらに、六甲時代の大西先生の教え子ということで、六甲学院43期の山本裕計さん（六甲伯友会副会長）・小幡成雄さんもお迎えできました。在関西の栄光卒業生同士だけでなく、兄弟校の卒業生とのつながりの結び目となることは、金澤支部長が挨拶でも強調された通り本支部の大きな目的で、この点は特記に値しましょう。これからますます多くの方が本支部に加わり、兄弟校の卒業生との交流も含めて、当支部への活動へ積極的に参加して下さることを心から願います。

西川 健誠（34期）



10月は天狗さんの誕生日

毎年、今は亡き天狗さん(H. シュトルテ先生のことで)の誕生日である10月に開催されてきた山岳部OB会が、2022年度も崎陽軒本店で開催されました。

24期を最後に廃部されてしまった山岳部なので、すべてのメンバーが今年で65歳以上という高齢者集団でしたが、迫嘉邦先生の参加も得て、3期生から24期生までの総勢33名が集い、昨年同様、とても楽しく、にぎやかなOB会となりました。

岩崎孝之会長(10期)の開催挨拶に続いて、「山の男の十の掟」を皆で懐かしく斉唱したのち、3時間近くにわたって歓談が続き、とりわけ、迫先生には、就職時の楽しいお話や天狗さんとの親しいかわりなど、かつての栄光学園についてのかげがえのない思い出を語ってくださり、歳月や田浦と大船という時空を超えた時間を過ごすことができました。



実は、栄光ヒュッテは存続の危機なんです

現在、この山小屋管理にあたる人材が栄光学園に不足しているように見受けられるなか、神奈川県は県有地を借りた敷地に建てられているため、山小屋の使用がなくなってしまうと県への敷地返還も求められる可能性が大いに懸念されています。

これまでの経緯から、あえて電気を引かず、薪ストーブや灯油ランプに頼ってきたことも、今となっては山小屋管理の障害になっているようです。山岳部OB会としても、後輩たちに山の生活の楽しみをぜひとも引き継いでいただきたいと願っていますので、これからも栄光ヒュッテの存続に向けて協力していきたいという総意がまとめられたことと思います。

堀越 宏一 (24期)

アイルランド紀行

ウェールズのホーリーヘッドよりアイルッシュ海を渡ってダブリンに着いた。まずトリニティ大学にケルズの書を見に行った。羊皮紙に書かれた聖書で渦巻模様と文字を組み合わせた図柄が美しい。

アイルランドの西側は崖が多く砂浜は少ない。島の東や南に多くの人々は住み、西側は小さな町しかない。夏の間だけバスが通る処も多い。西のケリー半島巡りのバスに乗ってみた。氷河期のU字谷が続き、山には木が一本もなく谷間の草原には羊や牛が放牧されている。路は海岸の狭い崖の上を走っており、バスのすぐ下に荒海が続くので、かなり危険である。

翌日は隣のデングル半島を巡ってみた。各所に石を積み上げた小屋や礼拝堂が残っている。僧院もありケルトの碑が立っていた。切り立った崖の続くモハの近くからアラン諸島に行く小船が出ている。東西にケルトの名を持つ三つの小島が並んでいる。一番近いイニシーア島は東の島の意である周囲10kmの岩だらけの島で、港の近くだけに家がある。他は岩を積んで区切った島が広がっている。

島には80の教会や150の城跡がある。村人が集まって綱引きとボートレースをしていた。ボートは獣皮を貼り合わせて黒いタールを塗ったものである。隣のイニシュマン島は真ん中の島の意で、ダンホンフルとダンフェアバイの二つの遺跡がある。大石を高さ5m幅2mで、径50mに積み上げた円形場がある。ダンホンフルは二重の円形で、内部に石を積んだ祭壇や窯のようなものが作られている。砦や祭祀場と思えるが、未だに解明されていない。

西端のイニシュモア島はケルト語で大きな島の意である。島は平らで東西に細長く、平たく硬い石で覆われている。砦のような遺跡もいくつ

かあり、中でもダンエンガスは規模が最も大きい。100m程の海に面した崖の上に石垣が三重に廻っている。丘の上であり、各々の石垣の間はかなり離れている。崖に向かって半円形に石垣が取り巻いて

いるので、城としても堅固なものだが、崖に面する処には堤や石垣が無いので、かなり危険で、城ではなさそうである。島は石や岩だらけで土壌が少ないので海藻を集めて厚く敷き詰め、その上にわずかな土を載せてジャガイモや野菜を作っていた。

アイルランド北部の山の上に石器時代のドルメンがいくつかある。細長い大石を5・6個立てて、その上に平らな大石をのせて載せたもので、古代の墓である。ドルメンの周りはストーンサークルが囲んでいる。

北のスライゴより北アイルランドのジャイアンツ・コーズウェー行のバスに乗った。コーズウェーの海岸は六角形の石柱が海岸や崖に6km近く並んでおり壮観である。小規模のものは層雲峡や平戸の生月島(イクツキシマ)でも見られるが、こちらのものは一面に六角柱が続いており、見飽きることはない。

北アイルランドは紛争が絶えない様子でどこにもバリケードがあり監視の兵が並んでいた。

池添 博彦 (8期)



2022年10月29日、アロイジオ会館及びオンラインで物理部OB会総会を開催いたしました。物理部OB会総会の開催は2019年10月以来3年ぶりであり、現地とオンラインの併用開催は初の試みとなりました。

今回は、10期から70期までの幅広い年代の方々、総勢40名にご参加いただき、物理部の歴史を感じさせられました。現地参加とオンライン参加の人数はそれぞれ20名でした。また参加者は50期代が10名、60期より若い世代が14名と、比較的若い世代が多い会となりました。

総会では参加者の自己紹介を行ったのち、議論事項として

- ①物理部OB会の参加資格とメンバーの収集方法
- ②在学中の物理部員との連携の模索
- ③次回以降の開催方式、形態

について議論しました。①については、従来は物理部に在籍経験のある方々を物理部OB会で独自に情報収集・管理していたことに関し、それが困難になってきたためその方法を見直すことに関するものでした。これについては従来の情報を利用しつつ、今後はEACON主体に徐々に移行していくこととなりました。②については、従来は物理部員とOBが栄光祭などで交流していたことに関し、その機会がコロナ禍でなくなったため、連携の1形態として物理部OB会総会の開催を在学中の部員にも連絡し、Web参加限定で見てもらふ形などを検討するものでした。これについてはいろいろ課題もあることから、次回からの導入は見送られることとなりました。③については、従来開催はアロイジオ会館での現地開催であり、開催通知・出席連絡は往復はがきを用いていたことに関し、オンライン併用やメール、Forms利用の是非を問うものでした。これについては前向きな意見が得られたため、次回以降もオンライン・現地併用

開催、出席連絡はForms利用の方向となりました。また今回開催通知は葉書を利用しましたが、開催費用圧縮の観点から、メールなどの積極利用も検討することとなりました。

初の現地・オンライン併用での総会開催でしたが、大きな機材トラブルなどはなく、無事完了させることができました。一方反省点として、

- ①司会進行を1人で行っていたため、リモート参加の方々のリアクションを見落とすことが多かった
- ②自己紹介の時間が長く、またオンライン参加の方々との懇親の場が取れなかった

ということがありました。これらについては今後改善に取り組んでいきたいと思っております。決算については以下のように報告します。余剰金は物理部OB会口座に入金します。

項目	単価	数量	計
収入の部			
会費(現地参加)	2000	17	34000
小計			34000
支出の部			
会場使用費	5000	1	5000
お茶代	1085	1	1085
通信費	31.5	738	23247
小計			29332
収支の部			
収入-支出			4668

次回物理部OB会総会の体制に関しては、OB会会長、副会長ともに、21期古谷哲夫氏、39期斎藤逸郎氏が留任となりました。また総会議長としては、自身が務めることとなりました。今回参加できなかったOBの方も、次回は是非ご参加ください。

石田 明久(51期)



学園だより

22.10.1

体育祭 スローガンは“Flow”

体育祭当日の朝、不安や緊張が自分の気持ちのほとんどを占め、上手くいくように自分の頭の中で何度も何度もシミュレーションをしていた。本当に不安だったが、実際やってみると、全校生徒が盛り上がっていたので非常に安心した。

(実行委員長 F君)

体育祭のリハーサルは広報部門としてでなく、一人の実行委員として本当に体育祭できるのか？と思った。不安に苛まれながら迎えた体育祭当日。みんなとコミュニケーションを取りながらなんとか体育祭を終えることができた。体育祭当日になって、広報の部門員がこのメンバーでよかったなと深く感じた。ありがとう。

(広報部門長 S君)

引継ぎ資料が残っておらず手探り状態の仕事も多くあり、僕自身、これでいい体育祭ができるのかと焦りやいら立ちを感じる瞬間も。そんな中で、「コロナ禍で先の見えない状況の中で先輩が守ってくれた体育祭の流れを繋ぐ」という意味を込めたflowをスローガンに、みな自分たちの仕事を全うしてくれました。

(総務部門長 H君)

ルールが直前に変更になってしまったり、動線を実行委員側も把握しきれていなかったりと、皆さんに迷惑をかけた点多いと思います。とはいえ、去年度71期の先輩方が0から作り上げ直してくださった栄光の体育祭を、僕ら72期なりに後輩へとつなげて行けたのかな、と思います。

(企画部門長 O君)



IOL2022 団体戦銅メダル獲得！

今年の夏休みの序盤、ヨーロッパのマン島で開催された国際言語学オリンピック2022に参加し、団体戦で銅メダルを獲得しました。

僕は中学2年生の時に部活の先輩に誘われて初めて国内予選に参加し、3年目となる高1の時にJOL銀賞を獲得し初めて国内2次予選に駒を進めました。年度を跨いで今年の4月に行われた二次予選では、問題が例年より難化しており手応えはあまり良くなかったのですが、日本8位に滑り込み、見事に代表を勝ち取りました。

言語学オリンピックでは例年、5つの大問に6時間の制限時間の中で取り組む「個人戦」と、個人戦よりはるかに難しい1つの問題を4人チームで4時間かけて解く「団体戦」が行われます。

個人戦では、第1問では20点中19点を獲得するなど善戦しましたが、他の問題は詰め甘さや経験不足からあまり点が取れず、3点差で努力賞を逃す結果となりました。世界の壁は高い。

団体戦では、満州語に関する問題が出題され、文法がよく似た日本語の話者であることに少し罪悪感を感じながらもかなりスムーズに解き進めることができました。扱われたテーマが満

州文字、数詞、文法、語彙など多岐にわたっていたため、分担して分野ごとに解く作戦が功を奏しました。

僕は満州語で書かれた満州語の辞書を分析して単語の意味を調べる課題を担当しましたが、なんとかチームに貢献できたと思います。

今大会では個人戦での入賞こそ叶いませんでしたが、団体戦では日本初となるメダルを獲得できたため非常に満足しています。また、他国代表との交流を持つことができ、非常に有意義な体験で、楽しかったです。(72期 S君)



▲ 堂々の銅メダル

22.9.2

東映アニメーションミュージアム見学

高1有志4人と一緒に、社会見学の一環として東映アニメーションミュージアムを訪問しました。アニメ制作現場の様子を知ることができ、60年以上前から現在に至るまでの様々な作品に触れることができました。案内して下さった管理室担当の方の丁寧な説明と質疑応答で、アニメの会社といってもアニメ制作以外にも多様な仕事のあることがわかりました。余談ですが、ドラゴンボールが庭を中心にあちこちに置いてあると聞いて探したのですが、隠し方が絶妙で、スタッフの方に少しずつヒントをいただいて、やっと7つ発見できた時は結構嬉しかったです。

高田 暁 (漫画研究会(休会中)顧問) (28期)



高一ゼミ

「土に埋まる」体験
身体ワークショップ

一学期の終わり、身体ワークショップを行い、最後に裏山に埋まる体験をしました。私が学生時代、最も衝撃を受けたワークショップであり、「身体感覚は社会を認知する最初の尺度になる」という発見をした、その体験の再現でもありました。放課後には高三71期も数人やってきて埋まりました。

中澤 安奈 (高一ゼミ講師)



▲ 裏山について行きました。穴を掘りました。この後、穴に横たわり埋まりました。

都電荒川線を貸切 鉄道研究会



▲ 夜行列車をイメージした「栄光」のオリジナルヘッドマーク

鉄道研究会では新たな試みとして、8月23日に東京都交通局さんのご協力のもと貸切列車を運行し、会員はもちろん、先生やOBらおよそ30名が乗車しました。

今回、貸切をさせて頂いた路線は、早稲田駅から山手線の北側を沿うように三ノ輪橋駅までを結ぶ都電の最後の生き残り、都電荒川線です。ダイヤ設定が楽な路面電車ということもあり、非常にリーズナブルな値段で貸し切ることができました。

貸切列車を運転するため、顧問の伊藤先生とともに東京都交通局さんに電話をしたとき、鉄道ファンにとっては大変喜ばしいことを教えて頂きました。それが、独自のヘッドマークを取

り付けることができるということです。そこで、会員から原案を募り、投票を行なった結果、江ノ島をモチーフとした「かたせ」と、夜行列車をイメージした「栄光」を列車の前後に取り付けることになりました。デザイン案は黒木先生にチェックして頂き、壱岐先生が紹介していただいたサイン沖繩さんに制作を依頼、強度と軽さを両立させた素晴らしいものへと仕上げることができました。

貸切列車の車内では通常の車内放送が流れないため、黒木先生に声優をお願いして独自の自動放送を制作、更に新型コロナウイルス対策用の放送については、長らく「保健係からの注意喚起」の校内放送を担当していた70期鉄研OBの齊藤さんをお願いして独自の新型コロナウイルス対策放送を収録し、当日は、車内外共に栄光学園鉄道研究会仕様になりました。 (74期 T君)



▲ 江ノ島をモチーフにした「かたせ」

名古屋城・清洲城見学 歴史研究部

一日目の朝。新横浜駅に集合したが、前日から静岡県内で大雨で新幹線は一時間以上遅れて名古屋駅に到着した。

まずデニーズで昼食をとり、一行は名古屋城の最寄り駅まで地下鉄で移動し天守閣まで向かった。7月下旬、真昼間、快晴、暑くないわけがなく旅行中一番体力が削られた。名古屋城に入る際、何となく英語版をとって見たらこんな訳し方があるのかと思い、結構面白かった。英語の勉強にもなるし、個人的に結構おすすめである。天守閣に着き全員で写真撮影をしたのだが、自分が赤い折り畳み傘を日傘代わりに使っていたため、写真のみならずあらゆる場面ですこぶる目立っていた。それから熱田神宮へ向かった。鳥居から本殿までかなり長く、途中にも施設が多くあり、回りきれなかった。 (72期 O君)

二日目。最初に向かったのは清洲城。清洲会議がおこなわれた場所である。30年ほど前に再建され、中は資料館となっている。中の展示物の中でもとりわけ目をひいたのが、信長に関する

大河ドラマや作品で使用された衣装の数々である。やはり豪華だ。午後に訪れたのはトヨタ産業技術記念館である。ここは本当に見どころが多かった。金属加工の実演では熱せられた金属がここまで赤く明るくなるのかと生で見たときは衝撃だった。最後のほうは駆け足になってしまったことが悔やまれる。 (73期 K君)



▲ 名古屋城をバックに

FLL・WRO連覇！ 物理研究部

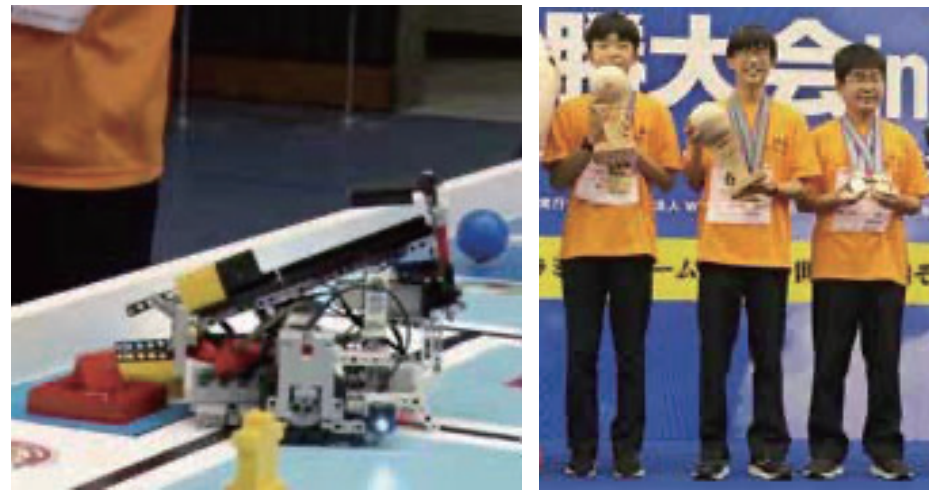
WROは、レゴで作ったロボットでミッションを攻略し、得点や速さを競う大会です。人間が操縦するのは禁止されていて、全自動で動くようにプログラミングしておく必要があります。

予選では3位に入れなければ予選落ちです。しかし、会場の明るさの変化が光センサーの誤動作に繋がったり、コースの摩擦が今までの練習と違ったりしてロボットがうまく動かず、1回目は暫定5位。2回目に2位に浮上して、なんとか予選を通過しましたが、本当に心臓に悪い、反省点の多い1日でした。

全国大会当日。ガチガチの僕と、F君とM君が集合。あとから来た引率の須田先生と一緒に会場の浜松アリーナに入ります。1回目の試技。微調整したおかげでロボットはかなり安定して動き、ミスを一つに抑え、なんと暫定一位であるということが判明！強豪のほとんどが、改造が中途半端に終わり通常ミッションに失敗したり、時間が足りず微調整を省いてしまったせいで大量に失点をしたりしたとのこと。これは…意外といけるんじゃないか…？ 2回目の試技の前に、30分の調整時間。1回だけ動作確認をして、残りの時間は充電とメンテナンスに充てます。そして2回目の試技。なんと僕らのロボットは通常ミッションをノーミスでクリアしました。2回目の競技のあとは、プレゼンテ

ションです。自分たちがここまで何をしてきたか、何を乗り越えてきたかということ、発表時間の3分間に詰め込みました。質疑応答をこなして、やることは全て終わり。疲れた一。しばらく待ったあと、盛大な結果発表が始まりました。ロボット競技は優勝！！完全な作戦勝ちでした。

表彰台から降りて、席に帰ろうとする途中、なんとプレゼンテーション賞も獲得したと知らされ、その辺の机にトロフィーを置いてもう一度表彰台へ。2部門制覇。日本代表です。(おそらく)史上初のFLL・WROの2大会連覇です。「ありえん」以外の言葉が出てきませんでした。世界大会、時差との戦いになると思いますが、楽しみです！頑張ってきます！ (72期 A君)



▲ レゴで作ったロボット。ミッションと格闘中

22.8.10

文部科学大臣杯 第18回小・中学校将棋団体戦

東日本大会出場 囲碁将棋部

この3人のチームで文部科学大臣杯の東日本大会に行くのは初めてだった。この大会は各地域予選を勝ち上がると出場権を得られる。

[神奈川県予選 1日目] 予選はリーグ戦形式で行われた。3人1組なので2人以上が勝利すれば勝ちである。チームは全勝し、予選初日リーグを1位通過した。

[神奈川県予選 2日目] 1日目の各リーグで2位以上のチームが2つのリーグに分かれて対戦をする。強豪チームが増えチームにとっても苦しい展開が続いた。通過は絶望的だと思われたが、1日目の勝ち星で差をつけていたことで最後の1枠の5位で通過した。1度諦めかけたこともあって非常に嬉しかった。

[東日本大会 本戦] 本戦一回戦もリーグ戦形式だった。辺りを見渡すとよく知る名前の中学校が集まっている。緊張が高まった。

[東日本大会 1日目] 作戦がうまく決まり、相手の反撃にも十分に対応できたことで勝利は目前だった。強敵を倒す喜びを前に最後まで気は抜けないと意識しすぎるあまり、戦況がひっくり返

る大きなミスをしてしまった。メンバー2人は1勝1敗で、チームは負けてしまった。

[東日本大会 2日目] 中盤思い切った攻めをしてそれが功を奏し、東日本大会での個人戦の初勝利を収めた。メンバー2人は惜しくも負けてしまったのでチームとしては負けてしまった。

[東日本大会 3日目] リーグ戦最終局。最初から有利な状況を保ち続けることができ、持ち時間の大半を残して勝利を収めた。2人も大差で勝利し、3日目は全勝で締めくくることができた。

チームとしては1勝2敗。リーグ戦で敗退となった。強豪チームの中で戦う東日本大会はこのチームにとっていい経験になった。

(73期 M君)



▲ 対局中の様子

同窓会 information

2023年度事業計画(案)

2023年度事業計画(案)については、4月の常任委員会での承認を得たうえで、5月開催の2023年度定時総会で議案提示となります。

2023年度事業計画

2023年度は、withコロナafterコロナでの同窓会運営を想定しています。3年間コロナ禍でリアルな活動が厳しく制限されてきましたが、この状況から脱却しリアルをベースとしたハイブリットスタイルへと舵を切り、“人を繋ぐ、人が繋がる同窓会”を多様な形で実践します。一層WEB環境を充実させ、どのような状況においても同窓会事業を円滑に進めていくことができるようにしていきます。

2023年度は、同窓会創設70年の節目の年です。同窓会執行部も新体制となり、70年を祝して、秋頃には同窓会70周年事業を実施する予定です。また記念グッズなどの企画・検討も進めていきます。

70周年事業には、60期代、70期代の若手会員にもスタッフとして参加してもらえるよう工夫しています。田浦から大船旧校舎、そして大船新校舎の3世代に亘り“繋がれる”企画を目指します。また従来の同窓会事業に加え、若手会員が自主的に企画、運営する「栄光ヒミツキチ」など、多様に「繋がる」ための、自由な活動への支援も、前向きに進めていきます。

新たな時代を迎え、学園も様変わりする中で、『栄光学園同窓会のビジョン』検討特別委員会からの答申をベースに今年度の計画も策定しています。また財政については、ビジョン検討特別委員会の後に立ち上げた「財務検討特別委員会」で、引き続き“会費”と“事業”のあり方や、具体的な課題解決についての検討を進め、可能なものから手法の工夫、改善をしていきます。

ホームページや会報The Eiko Alumniのさらなる充実、EACONによる名簿情報の充実と会員相互の情報共有、利便性の向上を促進します。OBフォーラムは、WEB環境を利用した新たな形を定着させていくとともに、リアルでの開催についても、内容・手法を踏まえ検討していきます。イエズス会校4校同窓会の共同イベントも、連携し実施します。

学園のアーカイブ情報の整理に引き続き協力するとともに、フォス校長特別企画等の常設展示も学園と協議します。また、アーカイブ情報のホームページ掲載などもさらに進めていきます。

同期会や各支部の活性化を促すとともに、必要な支援を行います。各委員会、同期会、支部会、イベントなどをきっかけと

し、若手委員、幹事の発掘に努めます。

学園、後援会、姉妹校同窓会との連携を一層強化するとともに、学園の「未来EiKO募金」についても、趣旨を踏まえ、引き続き広報活動等への協力を実施していきます。

総務部

① 各会の運営

会則や各種規程に則って、同窓会運営の堅確な推進を行う。新型コロナウイルス収束も踏まえ、常任委員会のより円滑かつ実効性高い運営を行う。

② 事務局のインフラ整備

事務局との連携も一層深め、円滑な会務遂行に協力する。事務局の会務遂行に資するインフラ整備を引き続き進める。

③ EACONの改修

「EACONの会員名簿」については、引続き利用者の増加に向けて施策を行うとともに、会費支払状況の確認が可能となるようなシステム改修を行う。

④ イエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)対応

JJHAFは、今年度も対面での会合を開催する。

⑤ 各種活動支援

主体的活動を旨としている「同期会」「支部」「活動グループ」については、新型コロナウイルス収束に伴い活発な活動の再開も想定され、要請に応じて各種支援を実施する。

財務部

① 会費納入率の向上

前年度から引き続き未納である会員について積極的に納付をお願いしていく。リニューアルされたホームページやAlumniにおいて同窓会活動にとっての会費の重要性を継続的にお伝えし、納入率の改善を目指す。

② 財務検討特別委員会との連携

財務検討特別委員会と連携し、当期に整理した課題に取り組んでいく。具体的には、総務部とも連携し、納入率改善施策としてEACONで納入状況の確認ができるようシステム改善を進める。より簡便に会費を納入できるよう口座振り込みの導入を検討する。また、よりわかりやすい会費支払い制度とするため、

現状の4グループ制について再検討を行う。

③ 健全な収支モデル

さらに、納入済みの会員や納入免除の年齢に達している会員から寄付を受けられるような制度も検討したうえで、現在のインフレの状況及び将来的なキャッシュ・フローを見据え、サステナブルな同窓会運営のために必要な会費の金額を模索していく。

広報部

① 同窓会報誌の発行

The Eiko Alumni は10月上旬に100号、2024年4月上旬に101号を発行予定。

② 同窓会WEB、同窓会Facebook(FB)の活用

継続的なWEBページの更新。同窓会FBにより定期的なプッシュ配信をする。また、同窓会FBの登録者数を増やすため広報を行う。アーカイブページのコンテンツ充実を図り、Alumniの過去のバックナンバーの閲覧を可能とする。

③ EACON活用の啓蒙

EACONの活用を促す為の、コンテンツの充実を図る。

④ その他

同窓会の公式グッズについて検討する。

事業部

① ホームカミング・デイ

栄光祭にて、OBの部屋「アラムナイ」を設置する。尚、70期期委員に主担当期として声掛けをする。

② OBフォーラム

コロナ収束状況を見極めつつ、オンライン開催とリアル開催、併用開催で定期的な開催を目指していく。通年で3回の開催を予定している。

③ 歴史文学散歩

コロナ感染防止の配慮を前提に、6期三春勝正氏・14期大島弘尚氏を中心に、年4回の歴史文学散歩を行う。

④ JJHAF共同イベント

コロナ収束状況を見極めつつ、4校共同イベントの開催を目指す。

⑤ 同窓会発足70周年記念事業

栄光学園同窓会発足70周年の節目である2023年の後半に対面でのイベントを実施する。

⑥ OBゼミ講師派遣

高1ゼミ及び放課後ゼミへのOB講師の派遣を行う。本年度は、33期と43期が担当する。

告知

5/13(土)-14(日) 栄光祭／OBの部屋

栄光祭の開催に併せてOBの部屋「アラムナイ」を設置。今年は「栄光ヒミツキチ」企画の配信イベントを実施予定。また、栄光学園、建学の父、フォス先生のパネルも展示します。

5/13(土) 同窓会定期総会 (アロジジオ会館／ZOOM)

2023年度定期総会は、5月13日(土)栄光祭当日に行う予定です。リアル&Zoom会議、また議決権行使書を併用してのハイブリット形式で開催します。各期、各支部の委員の皆さま、万障お繰り合わせのうえ、奮ってご出席ください。

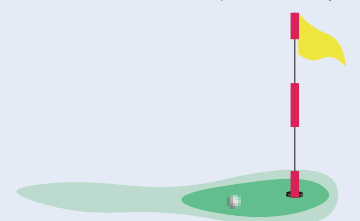
8/27(日)第6回「オールEIKOゴルフコンペ」

今回の代表幹事団は39期が担当しており、1人でも多くの栄光学園同窓生ゴルファーのご参加をお待ちしております。個人戦、団体戦を実施する予定で、今年は久々に表彰式を兼ねたパーティーを計画しております。

【日程】 2023年8月27日(日曜)

【コース】 よみうりゴルフ倶楽部

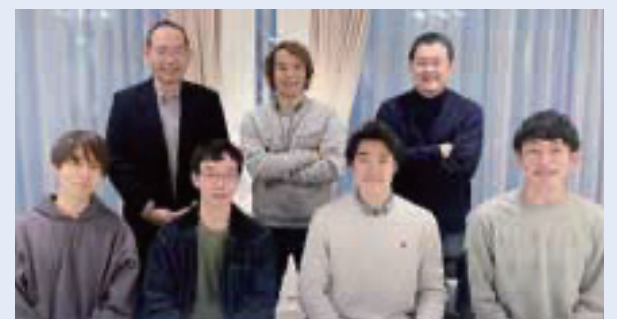
【申し込み方法】 申し込みサイトの準備ができ次第、同窓会WEBにて告知いたします。また、EACONに登録されているメールアドレスにもご案内の予定です。お楽しみに。



10月 同窓会発足70周年記念イベント

2023年は、栄光学園同窓会発足70周年の節目の年です。

10月に記念事業イベントを開催すべく、70期の若手OB達と一緒に企画の準備を始めております。



11/3(祝) 追悼ミサ (聖堂)

従来学園祭初日の同窓会総会に合わせて、前年度に亡くなり同窓会事務局で把握している、旧教職員、卒業生の追悼ミサを学園聖堂で行ってきました。ご遺族にも参列のご招待をしております。今年は3年ぶりの開催となりますので、追悼する方々は、100名を超えます。今年度は、カトリック教会では、死者の月となる11月に開催いたします。諸事情を考慮し、11月3日(祝日)を予定しています。次号Alumniに詳細をお知らせいたします。

2022年度OBゼミは32期(11回)と42期(11回)が担当しました。担当講師およびアレンジを下さった皆様、ありがとうございました。

32期

何故コンサルティング会社が人気なのか？

北 俊一 (株)野村総合研究所

医者・研究者・教育者として

宮崎 泰成 東京医科歯科大学大学院

医系技官という仕事 ～医者と役人、二足の草鞋～

福田 光 広島県東部厚生環境事務所・保健所

JAXAの今、そして未来へ ～宇宙航空活動のさらなる挑戦～

山川 宏 JAXA

「将来の夢」がない自分が歩んできた職業人生

譲原 理 AOI TYO Holdings(株)

資産形成としての投資、職業としての投資

菊池 真 ミョウジョウ・アセット・マネジメント(株)

情報があふれる時代に ～公共メディア・NHKの仕事～

宮本 英樹 NHKグローバルメディアサービス

サッカー(スポーツ)ビジネスの楽しさ、好きこそ物の上手なれ

利重 孝夫 シティ・フットボール・ジャパンほか

国家公務員としての経験と、大阪・関西万博へのお誘い

高科 淳 2025年日本国際博覧会協会

国際協力というシゴト ～世界の課題と向き合えるシアワセ～

古田 成樹 JICA

私の『やりたい仕事』が見つかるまで

田中 宏明 小林化工(株)、GOF法律事務所 他

緩和ケアと在宅医療-治さない医療-

茅根 義和 大森赤十字病院

42期

ドクターXは、なぜ「私、失敗しないので」と言うのか？

小林 信 国立がん研究センター

司法試験に落ちまくって30歳まで就職できなかった

弁護士と考える「マチベンの仕事とワーク・ライフ・バランス」

田畑 淳 溝の口法律事務所

起業という選択肢について

高江洲 大輔 (株)DREAMJOB

「好きなこと」を「仕事」にする？「好きなこと」で「社会の役に立つ」？

鈴木 直文 一橋大学大学院ほか

From Eiko to the World through Medicine.

高倉 一樹 UnMed Clinic Motomachi

「好きなことで生きていく」という快樂、あるいは地獄について

高見 洋平 (株)講談社

生活の糧を得る手段の探し方

石田 知行 行政書士法人石田事務所他

私の個人史主義 自閉症の子どもとともに、心理学から福祉へ

山本 崇博 一般社団法人キッズライン 代表理事

外資IT業界で働く

鶴岡 信介 Coupa(株)ほか

カーボンニュートラルと日本

若月 一泰 経済産業省 資源エネルギー庁

建築を発明して、世界をつくる

仲 俊治 仲建築設計スタジオ

アナウンサーから転じた記者が、情報の多すぎる時代に

中丸 徹 テレビ朝日

2023年度は33期・43期

2023年度OBゼミは33期と43期が担当します。

アレンジ含めて準備を下さっている皆さん、

担当講師としてお声がかかった皆さん。

よろしくお祈りいたします。

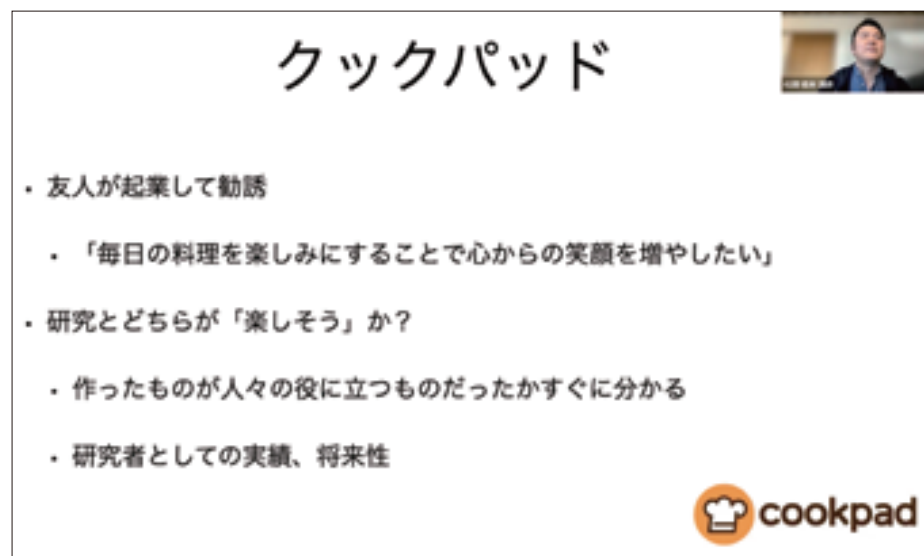


OBフォーラム

同窓会HP
>活動報告・会報記事
>OBフォーラム

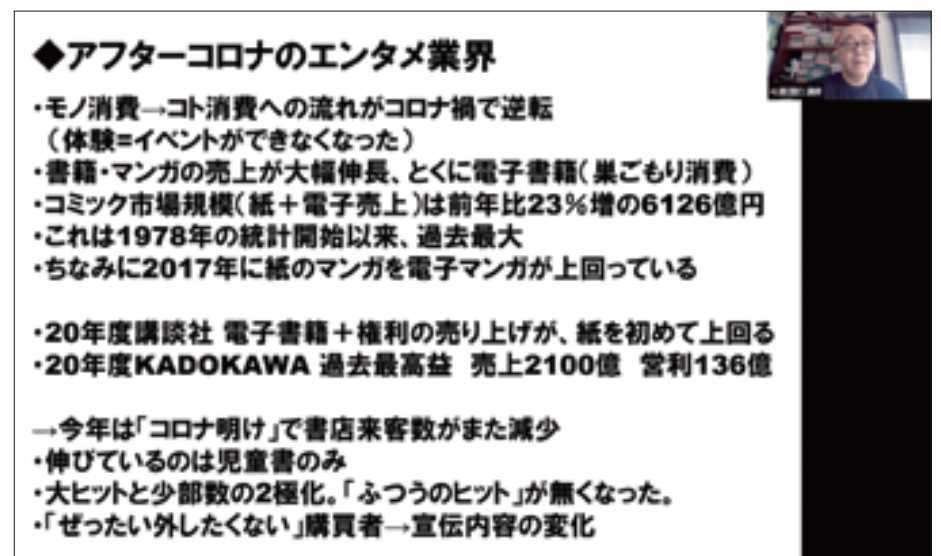
第16回OBフォーラム開催 22.12.10

2022年12月10日に、Zoomによるオンラインにより、第16回OBフォーラムは開催されました。41期が企画を担当し、クックパッド株式会社 Japan執行役員 橋本健太さんと、株式会社KADOKAWA 文芸・映像事業局 角川文庫編集部 部長 関口靖彦さんが講師を担当されました。橋本さんは『毎日の料理を楽しみにする仕事を』、関口さんは『編集者の仕事2022～新海誠の登場と飛躍を例に～』をテーマに講演していただきました。



▲ 橋本 健太氏(41期) クックパッド株式会社 Japan執行役員

2023年度は、32期と42期に企画を担当いただき、年2回ほどの開催を予定しています。準備ができ次第、同窓会ホームページ及び同窓会名簿EACONの登録メールアドレスにご案内させていただきます。お楽しみに！今後も、オンラインで開催されたフォーラムの中で公開可能なものについては、会員の皆様が閲覧できるように整備をしていきます。なお、1回～16回までのすべてのOBフォーラムでの講師・講演タイトルは当時の開催案内チラシとともに同窓会HPに掲載しております。



▲ 関口 靖彦氏(41期) 株式会社KADOKAWA 角川文庫編集部 部長

23.2.11

就活イベント イエズス会姉妹校4校同窓会共同

2023年2月11日、上智大学にて第二回イエズス会姉妹校4校同窓会共同イベント「きびしい世界を生き抜く自分のつくりかた 社会人第一歩編」を開催しました。このイベントは、2019年9月に実施された第1回イエズス会姉妹校4校長パネルトークに続き、栄光学園・六甲学院・広島学院・上智福岡の同窓会が連携して企画したものです。

当日は、ワンキャリア取締役 北野唯我さん(六甲63期)と、MC 西村勇人さん(栄光66期)がパネルディスカッションを行い、就職活動に悩む大学生に対し分かりやすいアドバイスがありました。結果、各校OBより質問が飛び交う盛会となり、このようなイベントをきっかけに同窓会活動にも興味を持って欲しいという主旨を達成できました。イベント終了後には、学生も混じえた懇親会を行い、幅広い意見交換ができました。



▲ ワンキャリア取締役 北野唯我氏(六甲63期)とMC 西村勇人氏(栄光66期)

未来EiKO募金
EIKO HIGH FOREVER FUND

栄光学園は、創立100周年にむかって、今後も時代のリーダーを輩出し続けることができるよう、【未来EiKO募金】を設立しました。母校のさらなる発展のため、未来のため、みなさまのご協力をお願い申し上げます。

詳細は右QRコードよりご覧ください。▶



2023年度 歴史文学散歩 開催告知

コロナ禍にもめげずに、歴史文学散歩は続けられてきました。2023年度も下記の4回を計画いたしました。平日実施のため、若い同窓生の皆様には申し訳ありませんが、同窓生ならびにそのご家族の積極的な参加を期待しております。参加を希望される方は、緊急連絡のためにも、メール等を同窓会事務所まで事前にご連絡ください。

大島弘尚(14期)

①小田原フラワーガーデンと五百羅漢

実施日:2023年5月16日(火)

集合:小田原駅大雄山鉄道改札口前 10時

昼食:お弁当or園内食堂(軽食) / 解散:14時半頃 / 距離:1.5 km

昨年度は香菜ガーデンのバラが人気でしたので、今年度も五月はバラやその他の花がみられる小田原フラワーガーデンにしました。当園メイン施設であるトロピカルドーム温室は、小田原市環境事業センター(ゴミ焼却施設)の余熱を利用している直径40メートル、高さ22メートルの温室です。中には約300種の熱帯・亜熱帯の花木、果樹を植栽しており、南国ムードを楽しめます。

(入場料200円)

【見どころ】

- 玉宝寺(五百羅漢)
- 小田原フラワーガーデン
- 久野2号古墳等
- 久野坂下窪遺跡古墳



③畠山重忠終焉の地を訪ねる

実施日:2023年11月21日(火)

集合:鶴ヶ峰駅(相鉄線・北口) 10時

昼食:お弁当 / 解散:14時半頃 / 距離:4 km

昨年のNHK大河ドラマは「鎌倉殿の十三人」と題して、有力御家人が中心にドラマが描かれました。そんな中で、一の谷の戦いで重忠は義経軍に属し、鶴越の逆落しでは、愛馬三日月を労わって背負って下りたのだという。また、義経の愛妾静御前が鶴岡八幡宮で舞を披露したときは、工藤祐経が鼓を、重忠が銅拍子を担当するなど文武両道にたけた御家人といわれています。そんな畠山重忠がだまされて壮絶な最後を遂げた戦場を訪ねます。

【見どころ】

- 鎧の渡し
- 重忠公碑
- 矢畑・腰巻
- 薬王寺
- 駕籠塚
- 白糸の滝
- 白根不動尊



②都筑の歴史博物館・歳勝土遺跡を見学

実施日:2023年9月28日(木)

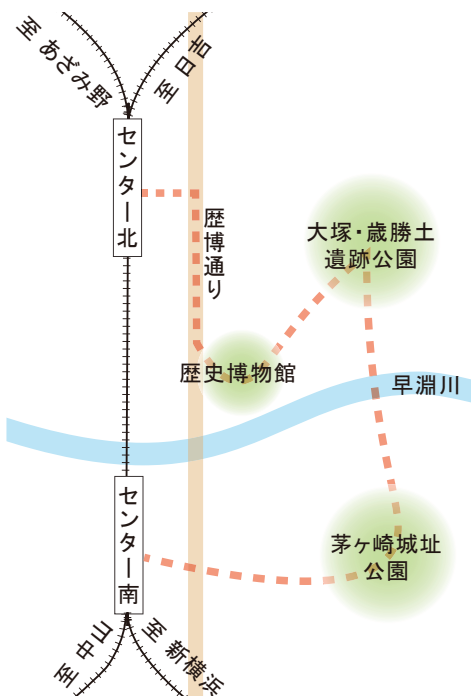
集合:センター北駅(市営地下鉄) 南口 10時

昼食:お弁当 / 解散:15時頃 / 距離:5km

今回訪ねる横浜市歴史博物館や大塚・歳勝土遺跡公園、茅ヶ崎城址公園などは横浜市の北西部に位置する都筑区にあります。平成6年11月6日、港北区・緑区の分割により、新しい区「都筑区」が誕生しました。時代ごとに展示された博物館や近隣の住居跡など、一度は見る価値があると思います。

【見どころ】

- 歴史博物館(常設館)
- 大塚・歳勝土遺跡公園
- (大塚遺跡・都筑民家園)
- 茅ヶ崎城址公園



④桜新町から呑川緑道を歩く

実施日:2024年3月28日(木)

集合:桜新町駅(田園都市線)西口 10時

昼食:お弁当 / 解散:15時頃 / 距離:5.5 km

このコースは呑川の散策と駒沢公園がメインのコースです。駒沢公園は広大で、ケヤキやイチョウの並木、桜、梅、など樹木の豊富なところ。

この時期公園や道路の桜並木の花がみられることを期待しています。

本来このコースは自由が丘駅までなのですが、距離が長いので都立大学駅で終わります。

【見どころ】

- 長谷川町子美術館
- 呑川親水公園
- 深沢不動
- 駒沢公園
- 呑川支流緑道
- 氷川神社
- 常円寺



栄光ヒミツキチとは

栄光生が記事を書き、栄光生が編集し、栄光生が読めるオンラインマガジンです。
「栄光生を縦にも横にも繋げまくる」をモットーに、栄光生の経験や思いを気軽に発信し、
栄光生が知らない世界を手軽に知ることができる媒体を目指します。
週に一度は何かしらの記事が更新されます



栄光ヒミツキチRadio@YouTube

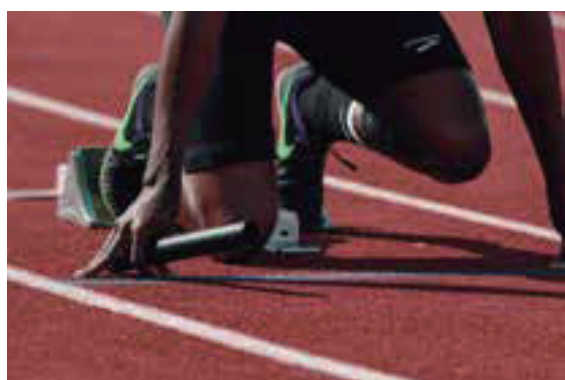
毎月第1土曜 21時から放送中!

#56 「還暦過ぎてサラリーマンから落語家へ」執筆者登場!

…記事執筆者の24期豆生田さんに、生インタビュー!

#58 新卒と就活生が思う「働く」「就活」ってなんだ?

…結局のところ仕事って何?を考える、たまには真面目な回。



インタビュー駅伝

第11回:吉澤和さん (73期/第76回栄光祭実行委員長)

…現役生登場! 栄光祭実行委員長のリアルにせまる。

特派員レポート

湯澤の司法試験体験記 …#7 勉強方法編

…司法試験の勉強法を紹介。
中高の勉強にも役立つ…?

西村、社会人やってみます …#9 アピールしよう!

…社会人がやるべき
「3つのアピール」も時に大事…?

武の文系院生生活どうなん? …#7 明けました。

…院生就活の12月の過ごし方。
研究とどう両立…?

栄光1年生! …#7 今年も終わり!

…中1の年末。
期末テストで成長の姿が。

栄光生の自由発信場(匿名編)

君は「競プロ」を知っているか

#9 栄光学園中学校入試問題にチャレンジ!(無差別級)

…今年の栄光入試を
プログラミングで解く

栄光生の自由発信場(実名編)

還暦過ぎてサラリーマンから落語家へ

#13 追い出し太鼓~やりたいことを

…約半年の連載の最終回。
豆生田さんにとって落語家とは。

プログラミングとわたし #2 コンピュータの夜明け

…長くコンピュータに接してきた
細田さんならではの視点に注目。

【協力者、募集中!】

栄光ヒミツキチは、書いてみたいことがある方や記事の編集に携わってみたい方を大募集中!
もちろん事前知識・スキルなどは一切不要。ご興味ありましたらeikogakuen.univ@gmail.com ご連絡ください!



真島 豊 栄光学園後援会理事長
神奈川県立光陵高等学校卒業
東京工業大学 博士課程修了
東芝勤務を経て、
現在東京工業大学教授(専門は極限ナノ材料造形と機能開拓)

2023年2月5日に行われた、栄光学園後援会の真島理事長と同窓会長の対談をアラムナイ用に編集しました。

山田会長(以下、山):本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、栄光学園を支える“後援会”の“真島理事長”とお話する時間をいただき、多くの同窓会会員が、おそらく、あまりその実態を知らない“栄光学園後援会”について、また、真島理事長ご本人について、お話を伺えればと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

真島理事長(以下、真):よろしくおねがいします。

山:同窓会は、卒業生である会員が、会員相互の親睦、社会への貢献、母校発展のために活動することを目的としています。後援会もまた学園のための組織であると思いますが、どのような組織なのでしょう?

真:後援会の活動目的は、同窓会と同様、学園の維持発展に寄与することで、学園の教育方針や経営方針を最大限尊重して活動しています。後援会が発足した経緯を申しますと、1977年に発足しています。初代校長のフォス先生がですね、当時外部からの寄付の受け皿が学園になくて…。それを出来るような組織を作ろうということで始まったと、前理事長の徳永さん(1期)から伺いました。

山:後援会ってもっと前からあると思っていたんですが、1977年ですか。同窓会が1953年なので、だいぶ経ってからですね。フォス初代校長の発案と、1期の徳永さんなのですね!

真:はい。今では構成員が7,610人、保護者が5,616人。卒業生も964人います。中学2年の4月から高3で卒業するまでの60ヶ月、

月に千円を積み立てていただいて、卒業時に「(保護者の方)にご入会いただけますか?」と確認をします。100%のご同意をいただけるときもちろんありますが、これまで95%以上の保護者の方にご理解いただけてご入会いただいております。

山:入会するということは?

真:ご同意いただけると、積み立てていた6万円を入会金に、後援会に入会していただきます。で、それ以降の会費などは一切ございません!

山:卒業時に多くの保護者が入る組織ということでしょうか?

真:はい。加えて、同窓会にご協力をいただいて、卒業後10年と、60歳を前にした卒業生の皆さんにですね、“(後援会に)是非、入会いただいて、学園の維持発展に寄与しませんか?”とご案内をさせていただいています。令和4年度ですと、29期~31期と59期の皆さんにご案内をしております。

山:その案内をいただいたら…

真:卒業生の皆様には、ご賛同いただけましたら、ご入会いただいて。その際に入会金として3万円を納めていただいております。人によっては、3年連続でのご案内になるので、「またか〜」と思われるかもしれませんが、入会は1回ですので、お納めいただくのは1回だけで。

山:卒業時や卒業生から納められた入会金は…?

真:お納めいただいたところから、後援会としての運転資金を除いた全額を、毎年そのまま全て学園に寄付をさせていただいております。ですので、基本的には間接的に学園への寄付をいただいていると思っていただくのが、認識として間違いがないかなと思います。また、後援会の活動をしっかりとお伝えし、把握していただくために、【後援会だより】という会報を年末に発行しており、後援会会員の皆様にお送りしています。

山:後援会のそのような活動は、なかなか卒業生には伝わりにくいですね。しかし、学園の活動にとって後援会からの資金支援は本当に大きいですね。

真:毎年皆さんからお預かりした1千万円を超えるお金を間接的に正しく学園に寄付させていただく。大きな責任があることは間違いありません。

山:真島さんが栄光の卒業生ではない中で、後援会の理事長に



なられて、こんなに献身的に活動されている…。本当にありがたいといえますか、すごいといえますか…。そのきっかけは…

真: 息子が栄光の59期でお世話になりました。息子が入って「よかったなあ」と同時に「栄光って良い学園だなあ」と思うところしきりでした。で、地区会というのがございまして。その地区会というのは、保護者の皆様が参加されるところで…。色々あって、結果的に栄光会(現役保護者の会)の会長になってしまいました…。それで初めての栄光会の総会の際に、保護者の皆様だけでなく、様々な方々をお呼びするんですが、そのリストに「後援会」というのがあって。「なんだろうね?これ」と感じます。それが後援会との最初の接点です。それで、栄光会会長となる年度の1年間理事を拝命し、息子の卒業後、評議員になりました。

山: 評議員会に出席されて…?

真: 実は、評議員会にもその時はほとんど出ていなかったんです…。で、いや、そこでなんです、先ほどもお話で登場した徳永さんから2013年にお手紙をいただきまして…

山: えっ、手紙ですか?

真: 後援会というものがあり、何やらお話があるとのことでした。その後、5月に大船の喫茶店で会うことになりました…

山: いやいや、この手の話ではありがち…ですね。はっはっは…

真: お会いしたら。後援会の活動のお声がけをいただきまして、2013年に副理事長になりました…。

山: えっ、いきなり副理事長? 2013年に副理事長になる前に後援会の理事とか、何かの役には就いていなかったんですか?

真: 特に役職などはありませんでした。その後、徳永理事長の跡を継ぐ形で、2018年から後援会の理事長を拝命し、今に至っております…。

山: 私も、同窓会で色々活動していますが、学園での6年間で振り返ると、やっぱり良い学校だと。個人的には、昔も今もお世話になっている。言い方が変かもしれませんが、恩義を感じています。で、「卒業生だから、やるのは当たり前じゃん」というのがあるんです。でも真島さんの場合は、ご子息の学校で…ご子息が過ごされた6年間というのを、親として実際近くで見て接して、良かったなと思っていただけていると。とはいえ、これだけの重責であったり、時間と労力を…。本当に有難いというか…

真: 自分の子供がこんなふうに素晴らしい環境で育てていただいたことを、親は皆さん実感できると思うんですよ。先ほど校長先生の新聞記事(朝日新聞・神奈川版(1/31))を拝見させていただいたんですけど、成績の順位は出さない。それで、皆さん同じ期であればお互い全員の顔はわかってますよね。180名弱。それで、それこそ私は31期相当なんですけれどもね。栄光の皆さんは、もう「何期?」だけで話が始まるじゃないですか。そういう学校、き

と他にないと思うんですよ。

少なくとも私が卒業した高校では、そんな人間関係は形成されなかったですね。

山: 確かに「何期! ?」で、話が始まりますね。今、お話の中で真島理事長は31期相

当ってというお話がありました。私が真島理事長と初めてお会いしたのは…。学園70周年事業のときだったと思うんですけど。自分は30期ですが、ちょうど同世代ということでお話しやすくて…

真: おかげさまで、私もお話ししやすく感じております。70周年事業の募金委員会が始まったのが2014年だと思うんです。で、2014年ってことはまだ副理事長になって1年しか経ってないし。

丁度、年間の活動が一周回ったか回らないくらいのときに、今度は募金委員会です…。毎月会議をやりましたよね、あの時は。

山: 新校舎を建てる時、募金委員会ですねえ。ほんとに毎月、やりましたよね～

真: 私はあの時は、まだ右も左もわからなくて。栄光卒業生の皆様に対してなんとなく、「卒業生でない人間が参加するのは、ちょっと怖いなあ」と思う部分も多々あり…。同世代の山田さんの存在に助けられた感じです。

山: えー、全然そんな風には見えませんでした。積極的にご発言いただいていた記憶が。そうですか、なるほど、怖いって感じがあるんなんて考えたことも無かったです。

山田会長と真島後援会理事長の話は、ここから盛り上がってくるのですが、紙面の都合で、まずは、ここまで。後援会の立ち上がりの秘話、真島理事長が理事長になってしまうまでの顛末記、中学受験の親子でのエピソード、などなど。続きは同窓会WEBで…。

山: 同窓会も後援会も、学園の維持発展に寄与するという部分では、全く同じ方向を向いていることを再確認できました。真島理事長、本日は、どうもありがとうございました。



沖喜英雄先生(音楽)を偲ぶ

2022年1月逝去



沖喜先生の訃報に接し、謹んで哀悼の意を捧げるとともに、先生の残された足跡に改めて敬意を表し、寄稿させていただきます。

思い返すと、ご縁の始まりは26年前の1997年、四半世紀も前になります。沖喜先生が在職された最後の年に私たち51期生が入学し、中1で音楽の授業をしていただきました。先生の軽快で絶妙なトークは、音楽にあまり興味のない生徒でも自然と引き込まれ、笑いの絶えない授業でした。先生が第二の故郷のように慕われていたイタリアでの様々な思い出から始まり、自ずと音楽の話題へと導かれ、まさに沖喜先生でしか成し得ない話術と世界観であったように思います。

また、沖喜先生は、私たちの入学よりもはるか昔、1972年に栄光フィルハーモニーを立ち上げられ、長い年月をかけて素晴らしいオーケストラへ育て上げてこられました。私たちが入学したのは、まさに沖喜先生の音楽が集大成を迎えた年であり、1998年4月に鎌倉芸術館で先生の最後の演奏会が行われました。ベートーヴェンのミサ曲ハ長調(作品86)では、ハ長調の無垢な和音が優しく響き、その美しい音色は今でも耳から離れません。先生が栄光フィルと歩まれてこられた時間の貴さを感じ、大きく心を動かされた瞬間でした。

私自身は先生の在職中に栄光フィルへ参加することは叶いませんでしたが、すでに非常勤講師となっていた先生が学校へお見えになる日に、先生を捕まえてはよもやま話に花を咲かせ、すっかり先生の大ファンとなってしまいました。

そこからのご縁で先生のご退職後も鎌倉のご自宅によくお招きいただきました。その帰りには、私の横浜の自宅までお車で送ってくださり、道中にレストランでご馳走をしてくださったりしました。また、先生のご自宅から由比ヶ浜まで散歩をしながら、学校であった出来事をお話しすることなどもありました。

栄光フィルは、沖喜先生のご退職後、吉田秀文先生、飯野習一先生、望月伸一郎先生、伊藤直樹先生、読響の田村先生、N響の建部先生による強力なご指導のもと、新たな歴史を歩み始め、私もヴァイオリンで参加させていただくことになりました。その後、私が栄光フィルやブラスバンドで指揮をさせていただくこととなり、それを沖喜先生へお伝えすると、指揮や音楽理論、スコアの読み方など幅広くご指導いただきました。

ある年の作文コンクールで、先生とのそのような交流を綴ったところ、思いがけず優秀賞をいただき、結果としてその内容が多くの方々の目に触れることになってしまいました。一学年後輩の内藤晃さんが私の作文に興味を示され、彼と沖喜先生のご自宅にお邪魔したことがありました。内藤さんが2017年の70周年コンサートでオーケストラの指揮をされた際(私はヴィオラで参加)、そのエピソードを同窓会会報の記事に書かれ、今回、それが同窓会の皆様の目に留まり私に声をかけていただいたというわけです。

「自ら渦を生み、他人を巻き込む人になりなさい」と、お話をされていた先生の言葉がふと頭に蘇ります。栄光フィルでは、沖喜先生のお人柄に魅せられ、多くの生徒、父兄、OBが先生のもとに集いました。内藤さんや私だけではなく、先生を慕い、教員・生徒という関係性を超えて交流を重ねた卒業生は他にも多かったと聞きます。まさにその言葉は、先生の生き様そのものであったように思います。今の私たちの感覚からすればやや強烈な言葉にも聞こえますが、ご自身の強い輝きによって、多くの人々を照らし、私たちを導いてくださったのだと思います。

生前のご指導に心から感謝を申し上げ、追悼の辞とさせていただきます。

高橋広行(51期)



▲左から沖喜先生、高橋さんのお母様、高橋さん

稲田順一先生(物理)を偲ぶ

2022年8月28日逝去



稲田先生が昨年8月28日に亡くなられました。先生には高校三年間物理を教えていただき、高校二年では担任もしていただきました。私が栄光学園に就職してからは、物理準備室の隣の席で、授業のこと、田浦時代の先生たちのエピソード、当時発売になったCDプレーヤーのこと、奈良のお寺のこと、などなど色々なお話をうかがいました。ご退職後にお会いしたときには「いま幼稚園の仕事をしているんだけど、『理事長先生の時間』というのがあって、先日はプリズムを持って行った。太陽の光から赤や青の光を分けてみせたら子供達が喜んでね…」とお話されました。嬉しそうな笑顔が忘れられません。

葬儀でいただいた、ご長男明弘さん(25期)のご挨拶の文章がとても素敵でした。了解をいただいたので以下に掲載します。

飯野習一(19期 元栄光学園教員)

「生涯現役」この言葉は今を生きる人にとって、ある意味あこがれる言葉なのかもしれません。とはいえ、これを実現できるのはほんの一握りなのではないかと思います。

父 稲田順一は、九十五歳で逝去する一ヶ月ほど前まで文字通り「現役」であり続けました。昭和二年に生まれ、戦争を体験

し、その後栄光学園で物理の教鞭を四十年近く執りました。引退した後もいくつかの学校で教職に就き、母が亡くなった後は中学、高校の厳しい？教員から、かわいらしい園児たちの優しいおじいさんの先生に大転換をいたしました。確かに、園長をしていた時の父は私達兄弟に対しても随分まるくなったなあという印象を持ったことを思い出します。

園長職を退いた後も亡くなる二ヶ月前まで理事長として幼稚園と関わり、理事長を引退する時の理事会においても自ら議長を務めていた姿が昨日のこのように目に浮かびます。

父は絶対に認知症にならないぞ！という強固な意思のもと、日々頭の鍛錬を怠ることはありませんでした。クラシック音楽の鑑賞、旅行、写真などいろいろな趣味がありましたが、父のそばにはいつも「ナンプレ」があり、亡くなる少し前の入院中も病床で「ナンプレ」をしていて、看護師さんたちを驚かせていたようです。

母を本当に大切にしていたということも心に深く刻まれています。父の口癖ともいえる「お母さんを大切にしてください」これは稲田家の家訓ではないかと思えます。残念ながら母は二十五年ほど前に亡くなってしまいましたので、父はある意味ずっと寂しい思いをしてきたのは間違いありません。その思いを抱えながらも父は最後まで教育に携わり続け、天寿を全ういたしました。もしかしたら母に「そろそろこちらにいらっしゃい」と言われていたかもしれないと考えています。一番大切だった母にそう言われてしまい、こちらの世界に別れを告げることにしたのでしょう。息子として私は最後まで人生を真っ直ぐに歩みぬいた父を誇りに思っやみません。力強い意志を継いで生きていきたいものです。

稲田明弘(25期 稲田先生ご子息)



会長の“ちょっと、ひとりごと！”

街は、賑わっていますね。まだマスクをしていることと、お店の出入り口にアルコール消毒が置かれていることを除けば、ほぼコロナ禍前に戻ったかのようです。特にお酒の出る飲食店の店内では皆さんマスクもしていませんので、もはやコロナは過去のもの、という感じです。

2017年からの私の会長任期のうちの約半分は、コロナ禍での活動でした。制約されたことも、もちろん多々ありますが、悪いことばかりではありませんでした。Zoomを取り入れ、リアルとのハイブリットにしたことにより、これまで参加が難しかった遠方の方なども、同窓会活動に参加できるようになったことは、“災い転じて福となす”でした。コロナでリアルイベントなどが出来なかった分、スピード感を持って懸案事項を改善することも出来ました。

本誌冒頭の会長挨拶の“ふりかえりと感謝”では、紙面の都合で触れることが出来ませんでした。同窓会事務局の皆さんには、日々本当にお世話になりました。現事務局長の前山先輩、前役の三春先輩、元役の故町田先輩、また現事務局の吉田さん、前職の村田さん、元職の故桶田さんに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。会長在任中、コロナで滞った企画があります。本誌に掲載している“会長対談”です。リアルでの対談ですので、流石にコロナ禍では実施出来ませんでした。ホームページのリニューアルを機に、毎年1～2人ほど、同窓会にかかわりのある方と会長が対談するという企画です。第1回は望月校長先生、第2回は1期の徳永前後援会理事長、第3回は19期の飯野先生が北海道の北見藤高校で教鞭を執られている時



に。そして今回は、後援会真島理事長との対談です。過去の対談は、同窓会HPでご覧いただけます。HPですので、文字数の制限はほとんど気にしていません。かなり突っ込んだ話も、ほぼそのまま載せていますので、きっと新たな発見があると思います。是非ご覧ください。

それでは皆さま、これにて失礼いたします。おっと、同窓会員は永久会員でしたね(笑)であれば、遠目で、邪魔にならない木陰などから、そーっと、ということ。

同窓会長 山田 宏幸 (30期)

訃報 (2022年10月1日以降判明分)

教職員

沖喜 英雄 先生	(音楽)	2022年 1月
アントニオ・ガルシア様	(事務)	2022年 7月 7日
宗 正孝 先生	(倫理)	2022年 7月22日
手塚 庸 先生	(数学)	2023年 1月29日

卒業生

神尾 徹氏	(8期)	2022年 1月28日
斎藤 万蔵氏	(13期)	2022年 5月21日
赤堀 実善氏	(15期)	2022年 7月 5日
宮前 雄一氏	(35期)	2022年 8月 2日
金子 仁氏	(15期)	2022年 8月31日
高橋 正明氏	(19期)	2022年 9月17日
進 克磨氏	(5期)	2022年 9月30日
安部 光平氏	(13期)	2022年10月 7日
上原 英雄氏	(3期)	2022年10月12日
山口 忠篤氏	(8期)	2022年10月22日
高屋鋪 尚史氏	(2期)	2022年10月23日
米岡 秀紀氏	(28期)	2022年11月 3日
外池 廉太郎氏	(20期)	2022年11月13日
加瀬 英明氏	(3期)	2022年11月15日
松永 徹平氏	(7期)	2022年11月16日
石渡 亨氏	(11期)	2022年11月16日
鮫島 隆展氏	(5期)	2022年11月20日
千種 忠昭氏	(11期)	2023年 1月 8日
渡辺 修氏	(4期)	2023年 1月18日
鈴木 弘氏	(14期)	2023年 1月22日
渡辺 新氏	(21期)	2023年 1月23日
鈴木 克義氏	(24期)	2023年 1月27日
里見 佳昭氏	(5期)	2023年 2月 5日
石原 正氏	(2期)	2023年 2月20日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

次号(第100号)

2023年10月発行予定。

投稿歓迎(同窓会WEB、Alumni)

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度+画像1~2枚。同窓会事務局宛てメール(または封書)でお送りください。

記事によっては、同窓会WEBのみ、Alumniのみの掲載となることがあることを、ご承知おきください。

同期会開催・支部活動のサポート

「同期の連絡先を知りたい!」「イベントの告知を同窓生にしたい!」こんなとき、同窓会事務局がお手伝い致します。卒業後10、25、50年目に該当する節目の同期会の開催には最大10万円の補助金をサポートの制度があります(※条件あり)。

節目の開催がコロナ下で延期となってしまった場合は、サポート対象になることがあります。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせください。

EACON 就活・ビジネス・同窓会・趣味などに をもっと活用しよう!

[イーコン：名簿&コミュニティーサイト]

EACONって何？

同窓会会員限定のSNSです。

EACON(イーコン:Eiko Alumni COmmunication Network)は、冊子名簿の代替、またOB同士の交流をはかる目的で作られました。

[名簿として] 会員情報(職業・連絡先・部活など)の閲覧・検索など

[コミュニケーションツールとして] 会員同士の交流・連絡など

何に使えるの？

以下のシーンなどで活用できます。

[就活] 希望業界に在籍する先輩にOB訪問したい。

[ビジネス] 栄光OBなら安心して相談できそう。

[同窓会] 長年ご無沙汰している同期と連絡を取りたい。

[趣味] 同じ趣味の仲間を見つけたい。

どうやって使うの？

まずはアクセス! ▶ <https://eacon.alumnet.jp>

※ログインID/仮パスワードをご不明の方は同窓会事務局へご連絡ください。

①ご自身の情報を更新：最新情報への更新をお願いします。

公開範囲設定可能、メアドはなるべく公開で。仮パスワードの変更をおすすめします。

②使ってみましょう！:

[会員検索] 名前・期・会社・職種・大学・部活など、様々な属性から会員を検索できます。

[グループ検索と参加申請]

期・部活・地域・趣味など、関わりのあるグループや興味のあるグループに参加して交流を深めましょう。



EACONの登録情報を更新しましょう

春から新生活！で、住所、勤務先、メールアドレスなど変更になった方、結構いらっしゃると思います。そんなときは、EACONの登録情報を更新してください。登録情報の更新作業は、EACONにログインすると、ご自身でできます(上記も参照)。「IDって何?」「パスワード忘れた!」の場合でもまずはEACONにアクセスしてください。受信できるメールアドレスが登録できていれば大丈夫です。

受信可能なメールアドレスが未登録、EACONにアクセスできない等の場合は、同窓会事務局までご連絡ください。

会費納入

会費の納入には【口座振替(推奨)】と【お振込】の2通りの方法があります。今年度の会費がまだ納められていない方には、7月に口座振替用紙とコンビニ払い用紙を送付する予定です。受け取られましたら、納入をよろしく申し上げます。会費納入についてご不明な点がございましたら遠慮なく同窓会事務局までお問い合わせください。

編集後記

多くの卒業生からのメッセージや近況報告をお届けでき、編集部一同感慨深く拝読しました。学生時代の思い出がよみがえり、各学年の同窓会の模様や先輩方のインタビューも掲載しています。今後も、卒業生の皆様とのつながりを大切にしていきたいと思います。【by Chatgpt】

今話題のChatgptに「同窓会誌の編集後記を100字ぐらいで」と投げたら、返された文が前段落です。「この文章を半分にして」とかお願いすると、それなりに要点を押さえた文案を提示してくれます。道具は使いようのようです。今号では前段落だけでしたが、次号の記事の編集では…。でも、編集後の説明責任は、負ってくれないですね…。 広報部 M(37期)

全てのお問い合わせ先

栄光学園同窓会事務局

〒247-0071 神奈川県鎌倉市玉縄4-1-1

Tel/Fax: 0467-44-8875

e-mail: admin@eikoalumni.org

The EIKO ALUMNI Vol.99

[発行日] 2023年4月15日

[発行人] 栄光学園同窓会 山田宏幸 (30期)

[編集・デザイン] 広報部 村井基彦 (37期) 川村貞知 (37期)

[web] 事業部 大須賀喜彦 (39期)

[印刷] 東湘印版株式会社

[発行] 栄光学園同窓会

〒247-0071神奈川県鎌倉市玉縄4-1-1 Tel&Fax 0467-44-8875

e-mail: admin@eikoalumni.org



栄光学園同窓会 HP 

<https://www.eikoalumni.org/>



同窓会からの最新情報をお届けします。

栄光学園同窓会 Facebookページ 

<https://www.facebook.com/eikoalumni/>



EACON [名簿&コミュニティーサイト]

<https://eacon.alumnet.jp/>

